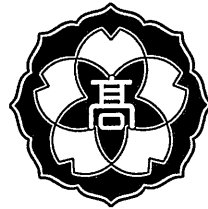


令和 3 (2021) 年度

# 年間指導計画

～ 指導と評価の計画～



神奈川県立横浜平沼高等学校全日制普通科

〒220-0073 神奈川県横浜市西区岡野1丁目5番8号

TEL 045-313-9200 (代表) FAX 045-311-0519

# 目次

- 1 各教科の「評価の観点」一覧 . . . . P. 1
- 2 教育課程表 . . . . P. 2
- 3 各学年の科目のページ

第1学年の科目	P.	第2学年の科目	P.	第3学年の科目	P.
①国語		①国語		①国語	
国語総合	3	現代文B	2 5	現代文B	5 0
②地理歴史・公民		古典A	2 6	総合古典	5 1
世界史B	5	古典B	2 7	現代文研究	5 2
③数学		②地理歴史・公民		古典研究	5 3
数学I	6	日本史A	2 8	②地理歴史・公民	
数学A	7	日本史B	2 9	世界史研究	5 4
④理科		③数学		日本史研究	5 5
化学基礎	8	数学Ⅱ(α型)	3 0	地理B	5 6
生物基礎	9	数学Ⅱ(β型)	3 1	※世界近現代史特論	
⑤保健体育		数学B	3 2	※日本近現代史特論	
体育	1 0	④理科		現代社会	5 7
保健	1 1	物理基礎	3 3	政治・経済	5 8
⑥芸術		化学	3 4	③数学	
音楽I	1 2	⑤保健体育		数学Ⅲ	5 9
美術I	1 3	体育	3 5	一般数学	6 0
書道I	1 4	保健	3 6	応用数学	6 1
⑦外国語(英語)		⑥芸術		実践数学I・A	6 2
コミュニケーション英語I	1 5	音楽II	3 7	④理科	
英語表現I	2 0	美術II	3 8	物理	6 3
⑧総合的な探究の時間	2 4	書道II	3 9	生物	6 4
		⑦外国語(英語)		応用化学	6 5
		コミュニケーション英語II	4 0	生物研究	6 6
		英語表現II	4 5	⑤保健体育	
		⑧家庭		体育	6 7
		家庭基礎	4 8	⑥外国語(英語)	
		⑨総合的な探究の時間	4 9	コミュニケーション英語III	6 8
				英語表現II	7 3
				リーディング・スキルズ	8 0
				⑦情報	
				社会と情報	9 0
				⑧音楽(専)	
				ソルフェージュ音楽理論	9 1
				⑨美術(専)	
				美術概論	9 2
				素描	9 3
				⑩家庭(専)	
				フードデザイン	9 4
				⑩総合的な学習の時間	9 5
				※世界史近現代特論、日本近現代史特論は117期生以降、開講されません。	

# 1 各教科の「評価の観点」一覧

<p><b>国語</b></p> <p>a : 関心・意欲・態度</p> <p>b : 話す・聞く能力</p> <p>c : 書く能力</p> <p>d : 読む能力</p> <p>e : 知識・理解</p>	<p><b>地理歴史・公民</b></p> <p>a : 関心・意欲・態度</p> <p>b : 思考・判断・表現</p> <p>c : 資料活用の技能</p> <p>d : 知識・理解</p>	<p><b>数学</b></p> <p>a : 関心・意欲・態度</p> <p>b : 数学的な見方や考え方</p> <p>c : 数学的な技能</p> <p>d : 知識・理解</p>
<p><b>理科</b></p> <p>a : 関心・意欲・態度</p> <p>b : 思考・判断・表現</p> <p>c : 観察・実験の技能</p> <p>d : 知識・理解</p>	<p><b>保健体育</b></p> <p>a : 関心・意欲・態度</p> <p>b : 思考・判断</p> <p>c : 運動の技能</p> <p>d : 知識・理解</p>	<p><b>芸術（音楽）</b></p> <p>a : 音楽への関心・意欲・態度</p> <p>b : 音楽表現の創意工夫</p> <p>c : 音楽表現の技能</p> <p>d : 鑑賞の能力</p>
<p><b>芸術（美術）</b></p> <p>a : 美術への関心・意欲・態度</p> <p>b : 発想や構想の能力</p> <p>c : 創造的な技能</p> <p>d : 鑑賞の能力</p>	<p><b>芸術（書道）</b></p> <p>a : 書への関心・意欲・態度</p> <p>b : 書表現の構想と工夫</p> <p>c : 創造的な書表現の技能</p> <p>d : 鑑賞の能力</p>	<p><b>外国語（英語）</b></p> <p>a : コミュニケーションへの関心・意欲・態度</p> <p>b : 外国語表現の能力</p> <p>c : 外国語理解の能力</p> <p>d : 言語や文化についての知識・理解</p>
<p><b>家庭</b></p> <p>a : 関心・意欲・態度</p> <p>b : 思考・判断・表現</p> <p>c : 技能</p> <p>d : 知識・理解</p>	<p><b>情報</b></p> <p>a : 関心・意欲・態度</p> <p>b : 思考・判断・表現</p> <p>c : 技能</p> <p>d : 知識・理解</p>	<p><b>総合的な学習の時間</b></p> <p>a : 関心・意欲・態度</p> <p>b : 思考・判断・表現</p> <p>c : 技能</p> <p>d : 知識・理解</p> <p><b>総合的な探究の時間</b></p> <p>a : 知識・技能</p> <p>b : 思考・判断・表現</p> <p>c : 主体的に取り組む態度</p>

◎各科目の「評価の方法」の詳しい内容や重み付けについては、授業の中で各担当者が説明します。

◎各科目の「評価の観点」は、必ずしも上記のものとは限りません。

(2) 令和3(2021)年度入学生教育課程表

※選択科目については変更になる場合があります。

教科	科目	標準単位数	1年次	α型(文系)			β型(理系)			
				2年次	3年次		2年次	3年次		
					必修	選択		必修	選択	
国語	国語総合	4	4							
	国語表現	3				②			②	
	現代文B	4		2	2		2	2		
	古典A	2					2			
	古典B	4		4						
	総合古典	※					③		③	
地理歴史	現代文研究	※				②			②	
	古典研究	※				②			②	
	世界史B	4	4							
	日本史A	2					2			
	日本史B	4		4						
	地理B	4				③			③	
公民	世界史研究	※				④			④	
	日本史研究	※				④			④	
	現代社会	2			2		2			
数学	倫理	2				③			③	
	政治	2				③			③	
	経済	2				③			③	
	数学Ⅰ	3	3							
	数学Ⅱ	4		3			4			
	数学Ⅲ	5				⑤			⑤	
	数学A	2	2							
理科	数学B	2		②		②	2			
	一般数学	※				③			③	
	応用数学	※				③			③	
	実践数学Ⅰ	※				②			②	
	物理基礎	2		2			2			
	化学基礎	4	2			④			④	
	生物基礎	2	2				3			
保健体育	生物	4				④			④	
	物理研究	※				②			②	
	化学研究	※				③			③	
	生物研究	※				②			②	
	体育	7~8	3	2	2		2	2		
	保健	2	1	1			1			
	芸術	音楽Ⅰ	2	②						
音楽Ⅱ		2		②						
美術Ⅰ		2	②							
美術Ⅱ		2		②						
書道Ⅰ		2	②							
書道Ⅱ		2		②						
外国語	書道Ⅲ	2				②			②	
	コミュニケーション英語Ⅰ	3	3							
	コミュニケーション英語Ⅱ	4		4			4			
	コミュニケーション英語Ⅲ	4			3			3		
	英語表現Ⅰ	2	2			2	2			
	英語表現Ⅱ	4		2	2		2	2		
	実用英語	※				②			②	
家庭情報	リーディングスキルズ	※				②			②	
	家庭基礎	2		2			2			
	社会と情報	2			2			2		
	(専)服飾文化	2~4				②			②	
	(専)家庭フードデザイン	2~6				②			②	
	(専)体育スポーツⅡ	2~13				②			②	
	(専)音楽理論	2~6				②			②	
	(専)音楽ソルフェージュ	2~9				④			④	
	(専)美術概論	2~4				③			③	
	(専)美術素描	2~6				③			③	
*学校外活動	※	①	①		①	①		①		
総合的な探究の時間		3~6	1	1	1		1	1		
計			29	29	14	6~14	29	14	6~14	
ホームルーム活動			1	1	1		1	1		
総計			30	30	21~29		30	21~29		
備考			]は選択肢を示す。○印の数字は選択科目の単位数を示す。*印は学校設定教科・学校設定科目を示す。ボランティア活動は3年間を通じて1単位まで認定する。ただし卒業単位に含めない。1コマの授業時間は55分。							

令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	国語・現代文B	学年	第2学年	教科書	第一学習社「高等学校 改訂版 現代文B」
		単位数	2単位	副教材	第一学習社「意味から学ぶ頻出漢字3000」 第一学習社「新版四訂カラー版新国語便覧」

**学習目標**  
近代以降の優れた文章や作品を読解し、鑑賞する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深めることを目標とする。

**学習方法**  
○授業で扱う各教材について自ら考え、また周りの生徒とともに作品を読解する活動を行います。  
○授業では「新版四訂カラー版新国語便覧」を利用し、文学史などの知識を深めます。  
○小テスト・課題レポートなど、各自の取り組みを評価します。テスト実施日や提出日をしっかりと把握しましょう。

評価の観点		科目の評価の観点の趣旨
a	関心・意欲・態度	国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。
b	話す・聞く能力	目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させている。
c	書く能力	必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。
d	読む能力	近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。
e	知識・理解	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点					単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d	e		
前期	近現代の文章	7	評論	「自明性の畏」からの解放	○	○	○			a文章の論理展開を的確に把握し、筆者の主張を理解している。 b内容について自分なりの意見を持ち、今後の考え方に反映させることができる。	授業への取り組み・定期試験・小テスト等
		11	小説	山月記	○		○	○		c与えられた課題に即して思考を深めスピーチや作文等の表現活動において、適切に表現する力を身に付けている。 d古典的な名作を読み文学の面白さを味わうことができる。	
		7	評論	手の変幻	○	○	○			d登場人物の心情を的確にとらえ、時代と人間の関係について考えを深めることができる。	
		7	評論	働かないアリに意義がある	○	○	○			e筆者の主張とその論拠の関係を的確につかみ、社会の構造と本質について認識を深めることができる。また、進んで評論を読む態度を身に付けている。	
後期	近現代の文章	5	評論	「集合知」という考え方	○	○	○			a文章の論理展開を的確に把握し、筆者の主張を理解している。 b与えられた課題に即して考察を深めスピーチや作文等の表現活動において、適切に表現する力を身に付けている。	
		16	小説	こころ	○	○	○			c内容について自分なりの意見を持ち、社会的な問題に対し広く目を向けていくことができる。	
		5	評論	動的平衡	○		○	○		d筆者の主張とその論拠の関係を的確につかみ、社会の構造と本質について深い考察をめぐらすことができる。また、近代の文学作品を主体的に読解し、より深く鑑賞する力と知識を身に付けている。	
		6	小説	葉桜と魔笛	○		○	○		e完成度の高い文章の論理展開を的確に把握し理解している。	
合計時数(55分授業)		64									

令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	国語・古典A	学年	第2学年	教科書	第一学習社「高等学校 改訂版 標準古典A 物語選」
		単位数	2単位	副教材	東京書籍「新精選古典文法 改訂版」 第一学習社「新版四訂カラー版新国語便覧」 いづな書店「古文単語330三訂版」

**学習目標**  
1年次の国語総合における古典の学習成果を踏まえ、基礎学力を定着させるとともに、発展的に古典を鑑賞する姿勢を養い、中古の古文作品を中心に読解・鑑賞し、漢文も取り入れながら学習し、作品を取り巻く時代、文化、社会等について幅広く学習し、興味・関心を高めながら知識を深めることを目標とする。

**学習方法**  
○繰り返し音読することで古典のリズムを体感し、古人の心を理解するよう努力しましょう。  
○古典文法や古語についての知識を確実にするために、一つ一つ確認しながら読解を進めていきます。  
○重要古語の意味内容を覚えるため、古文単語の小テストを定期的に行います。

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨	
	a	関心・意欲・態度	古典を読む力を進んで高めるとともに、古典についての理解や関心を深めようとしている。	
	d	読む能力	古典を読んで思想や感情などを的確に捉えたり、その価値を考察したりして、自分の考えを深め、発展させている。	
	e	知識・理解	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについて理解を深め、知識を身に付けている。	

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点			単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	d	e		
前期	古文	6	物語	竹取物語	○	○	○	a物語を読むことに興味・関心を持っている。 a範読・音読・指名読みに積極的に取り組んでいる。 d作品の内容を的確に理解している。 d随筆の作者の内面を理解している。 e用言の活用・助動詞・助詞、重要古語などについて理解している。 e文学史的な知識を身に付けている。	授業への取り組み、定期テスト、単語テスト等
		6	歌物語	伊勢物語	○	○	○		
		6	歴史物語	大鏡	○	○	○		
		6	随筆	方丈記	○	○	○		
前期	漢文	4	故事・寓話	「嬰逆鱗」 「画竜点睛」	○	○	○	a中国文化や漢文に関心を持っている。 a故事成語や教材の内容に興味・関心を持っている。 a範読・音読・指名読みの際の態度は積極的である。 d返り点に従って正しく音読できる。 dそれぞれの文章の内容を的確に理解している。 e漢文訓読・書き下し文のきまりを理解している。 e再読文字・助字の種類や用法を理解している。 e文学史的な知識を身に付けている。	
		4	漢詩	近体詩	○	○	○		
後期	古文	6	随筆	枕草子	○	○	○	a長編物語・随筆等を読むことや、教材の内容に興味・関心を持っている。 d随筆の作者の内面を理解している。 d物語の展開と登場人物の心情を理解している。 e助動詞・助詞・重要古語などについて理解している。 e文学史的な知識を身に付けている。 e和歌論・人物論を支える発想法を理解している。	
		8	物語	源氏物語	○	○	○		
		6	日記文学	更科日記	○	○	○		
	漢文	8	歴史物語	鴻門之会	○	○	○		a史伝を読むことに興味・関心を持っている。 d範読・音読・指名読みに積極的に取り組んでいる。 d返り点に従って正しく音読できている。 d史伝の登場人物の行動と心情を理解している。 e本文に出てくる句法について理解している。 e文学史的な知識を身に付けている。
4		思想	諸子百家	○	○	○			
合計時数(55分授業)		64							

令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	国語・古典B	学年	第2学年	教科書	第一学習社「高等学校古典B」
		単位数	4単位	副教材	東京書籍「新精選古典文法 改訂版」 第一学習社「新版四訂カラー版新国語便覧」 いっすな書店「古文単語330三訂版」

**学習目標**  
1年次の国語総合における古典の学習成果を踏まえ、基礎学力の定着を図るとともに、発展的に古典を鑑賞する姿勢を身に付けることを目標とする。  
作品を読解・鑑賞し、作品を取り巻く時代、文化、社会等について幅広く興味・関心を高めることを目標とする。

**学習方法**  
○繰り返し音読することで古典のリズムを体感し、古人と心を通わせられるようにします。  
○古典文法や古語についての知識を確かにするために、一つ一つ確認しながら読解を進めていきます。  
○重要古語の意味内容を覚えるため、古文単語の小テストを定期的に行います。

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨
	a	関心・意欲・態度	古典を読む力を進んで高めるとともに、古典についての理解や関心を深めようとしている。
d	読む能力	古典を読んで思想や感情などを的確に捉えたり、その価値を考察したりして、自分の考えを深め、発展させている。	
e	知識・理解	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについて理解を深め、知識を身に付けている。	

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点			単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	d	e		
前期	読むこと	6	古文	説話	○	○	○	a説話・随筆・物語を読むことに興味・関心を持っている。 d範読・音読・指名読みの際の態度が積極的である。 e作品の内容を的確に理解している。 e用言の活用・助動詞・助詞、重要古語などについて理解している。 e文学史的な知識を身に付けている。	授業への取り組み、定期テスト、単語テスト等
		10		随筆(一)	○	○	○		
		12		物語(一)	○	○	○		
		12		随筆(二)	○	○	○		
	6	漢文	故事成語	○	○	○	a中国文化や漢文に関心を持っている。 a故事成語や教材の内容に興味・関心を持っている。 d音読・指名読みの際の態度が積極的である。 e漢文訓読・書き下し文のきまりを理解している。 e再読文字・助字の種類や用法を理解している。 eそれぞれの文章の内容を的確に理解している。	授業への取り組み、定期テスト、単語テスト等	
	8		史伝	○	○	○			
10	漢詩		○	○	○				
後期	読むこと	10	古文	物語(二)	○	○	○	a随筆・長編物語・日記等を読むことや、教材の内容に興味・関心を持っている。 a和歌を読むことに興味・関心を持っている。 d物語の展開と登場人物の心情を理解している。 d日記の作者の内面を理解している。 d和歌や俳諧の表現に即して内容を把握している。 e助動詞・助詞・重要古語などについて理解している。 e和歌の修辞について理解している。 e文学史的な知識を身に付けている。	授業への取り組み、定期テスト、単語テスト等
		10		日記	○	○	○		
		10		物語(三)	○	○	○		
		10		和歌・歌謡・俳諧	○	○	○		
	8	漢文	文章	○	○	○	a教材の内容に興味・関心を持っている。 d音読・指名読みの際の態度が積極的である。 d思想において、本文の論理の展開を理解している。 e本文に出てくる句法について理解している。	授業への取り組み、定期テスト、単語テスト等	
	6		思想	○	○	○			
	10		小説	○	○	○			
合計時数(55分授業)		128							

令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	地理歴史・日本史A	学年	第2学年	教科書	実教出版「新日本史A 新訂版」
		単位数	2単位	副教材	帝国書院「図説日本史通覧」

学習目標	1. 日本前近代の歴史をふまえ、近現代史を事実に基づき把握し、歴史の構造とその変化を理解する。 2. 歴史を現代の課題と関連して主体的に学び、歴史的思考力を養う。 3. 日本の歴史を世界の動きと関連して把握し、国際社会に生きる日本人としての自覚と資質を身に付ける。
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学習方法	1. 授業における課題に対して自ら考え、また、資料を活用することでデータを読み取って考察する活動を行います。 2. 夏季休暇の際には課題レポートを提出してもらいます。最後まであきらめずに取り組みましょう。
------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨
	a	関心・意欲・態度	近現代史を中心とする日本の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとしている。
b	思考・判断・表現	近現代史を中心とする日本の歴史の展開から課題を見だし、世界的視野の下で日本を取り巻く国際環境などと関連づけて多角的に考察するとともに、国際社会の変化をふまえた公正な判断ができ、追究・考察した過程や結果も適切に表現できる。	
c	資料活用の技能	近現代史を中心とする日本の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身に付けている。	
d	知識・理解	近現代史を中心とする日本の歴史の展開について、その基本的な事柄に関する知識を身に付け、世界的視野の下、日本を取り巻く国際環境などと関連づけて理解している。	

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法	
					a	b	c	d			
前期	日本の近代史	16	国際環境の変化と明治維新	19世紀の世界動向と日本	○			○	a: 日本の近代国家の成立過程について、その時代の人物や遺跡・遺物などにふれ、関心を養っている。 b: 前近代と近代の基本的な違いを理解しつつ、日本の近代国家としての構造や発展過程の特徴を調べ、まとめ、発表できる。 c: 歴史資料や歴史地図、さらに年表などを活用する力を身に付けている。 d: 日本の近代国家形成過程とその特徴を理解している。	授業への取り組み(発言内容、プリント類への取り組み)、定期試験、課題レポート等をふまえ、総合的に評価する。	
				開国と倒幕		○		○			
				明治政府の諸改革と社会の変化		○	○	○			
				明治初期の外交と新しい文化の形成		○		○			
		16	近代国家の成立と国際関係の推移	自由民権運動の展開	○	○					a: 日本の近代国家の展開過程で起こった民衆運動や戦争などについて、身近な人からの聴き取りなどをしながら、関心を養っている。 b: 民衆運動や戦争などが起こる歴史の構造を調べ、まとめ、発表できる。 c: 地域に残る遺跡や遺物を調べ、まとめる力を身に付けている。 d: 日本の近代国家の展開過程で、民衆運動がおこったり、戦争に傾斜していく経過、そして戦争がどんな性格であったかを理解している。
				立憲体制の成立		○		○			
				日清戦争と国際関係		○		○			
				日露戦争前後の世界と日本		○		○			
後期	日本の現代史	16	両大戦をめぐる国際情勢と日本	第一次世界大戦下の世界と日本		○	○	a: 日本の近代と現代の基本的違いに関心を持つとともに、身近な人から聴き取りをしたり、時事的なニュースに関心を持つなど、現代社会への関心を養っている。 b: 戦前と戦後の基本的違いを認識するとともに、戦後の変遷を考え、まとめ、表現できる。 c: 歴史資料や年表を活用する力を身に付けている。新聞や雑誌の分析などで調べる力を身に付けている。 d: 戦後の日本が戦前の国家の構造と全く違う民主的な国家体制になったことを理解する。	授業への取り組み(発言内容、プリント類への取り組み)、定期試験、課題レポート等をふまえ、総合的に評価する。		
				デモクラシーの展開と大衆文化		○	○			○	
				軍国日本への道		○	○				
				アジア太平洋戦争と日本		○	○			○	
		16	現代世界と日本	戦後世界と日本	○	○					a: 戦後日本の歩みと世界情勢の推移についての関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。 b: 戦後日本の歩みと世界情勢の推移について、相互の動きを関連付け多角的に考察している。 c: 戦後日本の歩みと世界情勢の推移に関する諸資料を活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付け、考察した結果を表現できる。 d: 戦後日本の歩みと世界情勢の推移についての基本的な事柄を、世界の動向と関連づけて理解し、その知識を身に付けている。
				日本の再建と復興への道		○	○			○	
				冷戦と日米安保体制			○			○	
				高度経済成長下の日本		○	○			○	
合計時数(55分授業)		64									



令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	地理歴史・日本史B	学年	第2学年	教科書	山川出版社「詳説日本史B 改訂版」
		単位数	4単位	副教材	第一学習社「最新日本史図表 三訂版」 実教出版「新詳説日本史史料集」

学習目標	1. 日本の原始から現代までを事実に基づき把握し、歴史の構造とその変化を理解する。 2. 歴史を現代の課題と関連して主体的に学び、歴史的思考力を養う。 3. 日本の歴史を世界の動きと関連して把握し、国際社会に生きる日本人としての自覚と資質を身に付ける。																																																																																																																											
	1. 授業における課題に対して自ら考え、また、資料を活用することでデータを読み取って考察する活動を行います。 2. 授業においては補助プリントや演習プリントも利用します。図表と史料集も活用します。 3. 夏季休暇の際には課題レポートを提出してもらいます。最後まであきらめずに取り組みましょう。																																																																																																																											
学習評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">評価の観点</th> <th colspan="2">科目の評価の観点の趣旨</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a</td> <td>関心・意欲・態度</td> <td colspan="2">日本の通史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとしている。</td> </tr> <tr> <td>b</td> <td>思考・判断・表現</td> <td colspan="2">日本の歴史の展開から課題を見だし、世界的視野の下で日本を取り巻く国際環境などと関連づけて多角的に考察するとともに、国際社会の変化をふまえた公正な判断ができ、追究・考察した過程や結果も適切に表現できる。</td> </tr> <tr> <td>c</td> <td>資料活用・技能</td> <td colspan="2">日本の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身に付けている。</td> </tr> <tr> <td>d</td> <td>知識・理解</td> <td colspan="2">日本の歴史の展開について、その基本的な事柄に関する知識を身に付け、世界的視野の下、日本を取り巻く国際環境などと関連づけて理解している。</td> </tr> </tbody> </table>	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨		a	関心・意欲・態度	日本の通史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとしている。		b	思考・判断・表現	日本の歴史の展開から課題を見だし、世界的視野の下で日本を取り巻く国際環境などと関連づけて多角的に考察するとともに、国際社会の変化をふまえた公正な判断ができ、追究・考察した過程や結果も適切に表現できる。		c	資料活用・技能	日本の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身に付けている。		d	知識・理解	日本の歴史の展開について、その基本的な事柄に関する知識を身に付け、世界的視野の下、日本を取り巻く国際環境などと関連づけて理解している。																																																																																																								
	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨																																																																																																																									
	a	関心・意欲・態度	日本の通史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとしている。																																																																																																																									
	b	思考・判断・表現	日本の歴史の展開から課題を見だし、世界的視野の下で日本を取り巻く国際環境などと関連づけて多角的に考察するとともに、国際社会の変化をふまえた公正な判断ができ、追究・考察した過程や結果も適切に表現できる。																																																																																																																									
	c	資料活用・技能	日本の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身に付けている。																																																																																																																									
d	知識・理解	日本の歴史の展開について、その基本的な事柄に関する知識を身に付け、世界的視野の下、日本を取り巻く国際環境などと関連づけて理解している。																																																																																																																										
前期	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">学期</th> <th rowspan="2">内容のまとめ</th> <th rowspan="2">時数</th> <th rowspan="2">単元(題材)</th> <th rowspan="2">学習内容</th> <th colspan="4">評価の観点</th> <th rowspan="2">単元(題材)の評価規準</th> <th rowspan="2">評価方法</th> </tr> <tr> <th>a</th> <th>b</th> <th>c</th> <th>d</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="8">前期</td> <td rowspan="4">原始古代と中世、近世の日本</td> <td rowspan="4">30</td> <td rowspan="4">古代国家の成立から武家社会の展開まで</td> <td>日本文化のあけぼのから律令体制の成立</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td rowspan="8">a:日本の古代国家の成立過程や武家社会について、その時代の人物や遺跡・遺物などにふれ、関心を養う。 b:中国や朝鮮諸国との違いを理解しつつ、日本の古代国家としての構造や発展過程、武家政権の成立過程の特徴を調べ、まとめたり、発表できる。 c:歴史資料や歴史地図、史料などを活用する力を身に付けている。 d:日本の古代国家と武家社会の成立過程とその特徴を理解している。</td> <td rowspan="8">「学習態度」(授業への取り組み、発言内容、プリント類への取り組み)、「定期試験」、「課題レポート」等をふまえて、総合的に評価する。</td> </tr> <tr> <td>摂関政治と荘園公領制の展開</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>武家社会の成立と文化の新機運</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>武家社会の展開と室町文化</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">34</td> <td rowspan="4">藩体制の成立と動揺</td> <td>幕藩体制の展開</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td rowspan="4">a:幕藩体制の展開過程で起こった身分制度や税制などに興味を持ち、身近な文学作品なども活用して関心を養う。 b:百姓一揆や新田開発などの実際の構造を調べ、まとめ、発表できる。 c:地域に残る伝承や遺跡を調べ、まとめる力を身に付けている。 d:幕藩体制の成立から崩壊までを、海外諸国との関係を含めながら理解している。また、近世文化の正しい知識を身に付けている。</td> </tr> <tr> <td>近世文化の成立</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>幕藩体制の動揺</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>近世文化の成熟</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td rowspan="8">後期</td> <td rowspan="4">近・現代の日本</td> <td rowspan="4">32</td> <td rowspan="4">近代国家の形成と二つの大戦</td> <td>近代への転換</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td rowspan="8">a:近世と近代の基本的違いに関心を持つとともに、大きな時代の転換期や激動の時代に生きた人々の実際の姿を想像することができる。 b:戦争の実情を具体的に理解し、まとめ、表現できる。 c:図書や映像などの史資料を活用するだけでなく、新聞や雑誌なども積極的に活用する力を身に付けている。 d:近代の日本の発展と文化を実態に即して理解する。</td> <td rowspan="8">「学習態度」(授業への取り組み、発言内容、プリント類への取り組み)、「定期試験」、「課題レポート」等をふまえて、総合的に評価する。</td> </tr> <tr> <td>近代国家の形成</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>二つの世界大戦</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>日本の市民文化</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">32</td> <td rowspan="4">十五年戦争から現代日本</td> <td>十五年戦争</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td rowspan="4">a:戦中から戦後日本の歩みと世界情勢の推移についての関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。 b:戦争時の世界情勢の推移について、相互の動きを関連づけ多角的に考察している。 c:戦後日本の歩みと世界情勢の推移に関する諸資料を活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付け、考察した結果を表現できる。 d:20世紀以降の日本の歩みと世界情勢の推移についての基本的な事柄を、世界の動向と関連づけて理解し、その知識を身に付けている。</td> </tr> <tr> <td>戦時下の国民生活</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>現代の日本</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>新しい文化</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計時数(55分授業)</td> <td>128</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法	a	b	c	d	前期	原始古代と中世、近世の日本	30	古代国家の成立から武家社会の展開まで	日本文化のあけぼのから律令体制の成立	○			○	a:日本の古代国家の成立過程や武家社会について、その時代の人物や遺跡・遺物などにふれ、関心を養う。 b:中国や朝鮮諸国との違いを理解しつつ、日本の古代国家としての構造や発展過程、武家政権の成立過程の特徴を調べ、まとめたり、発表できる。 c:歴史資料や歴史地図、史料などを活用する力を身に付けている。 d:日本の古代国家と武家社会の成立過程とその特徴を理解している。	「学習態度」(授業への取り組み、発言内容、プリント類への取り組み)、「定期試験」、「課題レポート」等をふまえて、総合的に評価する。	摂関政治と荘園公領制の展開		○		○	武家社会の成立と文化の新機運		○	○	○	武家社会の展開と室町文化	○		○	○	34	藩体制の成立と動揺	幕藩体制の展開	○	○		○	a:幕藩体制の展開過程で起こった身分制度や税制などに興味を持ち、身近な文学作品なども活用して関心を養う。 b:百姓一揆や新田開発などの実際の構造を調べ、まとめ、発表できる。 c:地域に残る伝承や遺跡を調べ、まとめる力を身に付けている。 d:幕藩体制の成立から崩壊までを、海外諸国との関係を含めながら理解している。また、近世文化の正しい知識を身に付けている。	近世文化の成立	○		○	○	幕藩体制の動揺		○		○	近世文化の成熟	○		○	○	後期	近・現代の日本	32	近代国家の形成と二つの大戦	近代への転換		○	○	○	a:近世と近代の基本的違いに関心を持つとともに、大きな時代の転換期や激動の時代に生きた人々の実際の姿を想像することができる。 b:戦争の実情を具体的に理解し、まとめ、表現できる。 c:図書や映像などの史資料を活用するだけでなく、新聞や雑誌なども積極的に活用する力を身に付けている。 d:近代の日本の発展と文化を実態に即して理解する。	「学習態度」(授業への取り組み、発言内容、プリント類への取り組み)、「定期試験」、「課題レポート」等をふまえて、総合的に評価する。	近代国家の形成	○	○		○	二つの世界大戦		○	○	○	日本の市民文化	○		○	○	32	十五年戦争から現代日本	十五年戦争	○	○		○	a:戦中から戦後日本の歩みと世界情勢の推移についての関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。 b:戦争時の世界情勢の推移について、相互の動きを関連づけ多角的に考察している。 c:戦後日本の歩みと世界情勢の推移に関する諸資料を活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付け、考察した結果を表現できる。 d:20世紀以降の日本の歩みと世界情勢の推移についての基本的な事柄を、世界の動向と関連づけて理解し、その知識を身に付けている。	戦時下の国民生活	○	○		○	現代の日本			○	○	新しい文化	○	○	○		合計時数(55分授業)	128								
学期	内容のまとめ						時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法																																																																																																													
		a	b	c	d																																																																																																																							
前期	原始古代と中世、近世の日本	30	古代国家の成立から武家社会の展開まで	日本文化のあけぼのから律令体制の成立	○			○	a:日本の古代国家の成立過程や武家社会について、その時代の人物や遺跡・遺物などにふれ、関心を養う。 b:中国や朝鮮諸国との違いを理解しつつ、日本の古代国家としての構造や発展過程、武家政権の成立過程の特徴を調べ、まとめたり、発表できる。 c:歴史資料や歴史地図、史料などを活用する力を身に付けている。 d:日本の古代国家と武家社会の成立過程とその特徴を理解している。	「学習態度」(授業への取り組み、発言内容、プリント類への取り組み)、「定期試験」、「課題レポート」等をふまえて、総合的に評価する。																																																																																																																		
				摂関政治と荘園公領制の展開		○		○																																																																																																																				
				武家社会の成立と文化の新機運		○	○	○																																																																																																																				
				武家社会の展開と室町文化	○		○	○																																																																																																																				
	34	藩体制の成立と動揺	幕藩体制の展開	○	○		○	a:幕藩体制の展開過程で起こった身分制度や税制などに興味を持ち、身近な文学作品なども活用して関心を養う。 b:百姓一揆や新田開発などの実際の構造を調べ、まとめ、発表できる。 c:地域に残る伝承や遺跡を調べ、まとめる力を身に付けている。 d:幕藩体制の成立から崩壊までを、海外諸国との関係を含めながら理解している。また、近世文化の正しい知識を身に付けている。																																																																																																																				
			近世文化の成立	○		○	○																																																																																																																					
			幕藩体制の動揺		○		○																																																																																																																					
			近世文化の成熟	○		○	○																																																																																																																					
後期	近・現代の日本	32	近代国家の形成と二つの大戦	近代への転換		○	○	○	a:近世と近代の基本的違いに関心を持つとともに、大きな時代の転換期や激動の時代に生きた人々の実際の姿を想像することができる。 b:戦争の実情を具体的に理解し、まとめ、表現できる。 c:図書や映像などの史資料を活用するだけでなく、新聞や雑誌なども積極的に活用する力を身に付けている。 d:近代の日本の発展と文化を実態に即して理解する。	「学習態度」(授業への取り組み、発言内容、プリント類への取り組み)、「定期試験」、「課題レポート」等をふまえて、総合的に評価する。																																																																																																																		
				近代国家の形成	○	○		○																																																																																																																				
				二つの世界大戦		○	○	○																																																																																																																				
				日本の市民文化	○		○	○																																																																																																																				
	32	十五年戦争から現代日本	十五年戦争	○	○		○	a:戦中から戦後日本の歩みと世界情勢の推移についての関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。 b:戦争時の世界情勢の推移について、相互の動きを関連づけ多角的に考察している。 c:戦後日本の歩みと世界情勢の推移に関する諸資料を活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付け、考察した結果を表現できる。 d:20世紀以降の日本の歩みと世界情勢の推移についての基本的な事柄を、世界の動向と関連づけて理解し、その知識を身に付けている。																																																																																																																				
			戦時下の国民生活	○	○		○																																																																																																																					
			現代の日本			○	○																																																																																																																					
			新しい文化	○	○	○																																																																																																																						
合計時数(55分授業)	128																																																																																																																											

令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	数学・数学Ⅱ(α)	学年	第2学年	教科書	数研出版「改訂版 高等学校 数学Ⅱ」
		単位数	3単位	副教材	数研出版「サクシード 数学Ⅱ+B」

学習目標	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分法と積分法について、基礎的な知識や技能を習得する。事象を数学的に考察し表現する能力を養うことで数学のよさを理解できるようにする。
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------

学習方法	○授業においては、定義・公式・例題を理解し、練習問題を自ら考える。疑問点は積極的に質問する。 ○復習を心がけ、毎週末には必ず1週間に学んだ内容を理解できているか確認する。 ○授業用と問題集用のノートを用意し、幅広く多くの問題を解き、基礎力の徹底、応用力の向上を図る。
------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨			
	a	関心・意欲・態度	いろいろな式、図形と方程式、三角関数、指数関数・対数関数及び微分法と積分法の考え方に関心を持つとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。			
	b	数学的な見方や考え方	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、いろいろな式、図形と方程式、三角関数、指数関数・対数関数及び微分法と積分法について、数学的な見方や考え方を身に付けている。			
	c	数学的な技能	いろいろな式、図形と方程式、三角関数、指数関数・対数関数及び微分法と積分法において、事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。			
	d	知識・理解	いろいろな式、図形と方程式、三角関数、指数関数・対数関数及び微分法と積分法における基本的な理念、原理・法則、用語・記号などを理解し、知識を身に付けている。			

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
	式と証明	14	式と計算	3次式の展開と因数分解	○				a: 整式の四則計算に関心をもち、それらを四則計算の考察に活用しようとする。 b: 二項定理を用いた展開式や恒等式についてを考察することができる。 c: 等式、不等式の証明ができる。 d: 等式、不等式の証明における証明方法、式の扱い方を理解できる。	授業への取り組み 定期試験 レポート 課題等
				二項定理		○				
				整式の割り算	○					
				分数式とその計算	○					
				恒等式			○			
			等式と不等式の証明	等式の証明			○	○		
				不等式の証明			○	○		
	複素数と方程式	9	複素数と2次方程式の解	複素数とその計算	○				a: 2次方程式の解を求める際、複素数に関心をもち、それらの考察に活用しようとする。 b: 解と係数の関係を用いて考察し表現することができる。 c: 因数定理を用いた因数分解ができる。 d: 解と係数の関係や高次方程式の解き方を理解できる。	授業への取り組み 定期試験 課題等
				2次方程式の解	○		○			
				解と係数の関係		○	○			
			高次方程式	剰余の定理と因数定理			○			
				高次方程式			○			
	図形と方程式	26	点と直線	直線上の点	○				a: 直線上、平面上の点や直線の方程式に関心をもち、2直線の関係の考察に活用しようとする。 b: 軌跡の方程式や不等式の表す領域について考察し、表現することができる。 c: 円と直線、2つの円の関係について考察し、扱いなどの技能を身に付けている。 d: 円と直線、2つの円の関係の調べる方法を理解できる。	授業への取り組み 定期試験 レポート 課題等
				平面上の点	○					
				直線の方程式	○					
			円	2直線の関係	○					
				円の方程式			○	○		
				円と直線			○	○		
軌跡と領域	2つの円			○	○					
	軌跡と方程式		○							
	不等式の表す領域		○							
	三角関数	15	三角関数	角の拡張	○			a: 三角関数の性質に関心をもち、それらの考察に活用しようとする。 b: 三角関数の性質をグラフを用いて考察し表現することができる。 c: 加法定理(2倍角・半角の公式)を用いて、様々な角の三角関数の値を求めることができる。 d: 三角関数のグラフや三角関数の合成について理解できる。	授業への取り組み 定期試験 レポート 課題等	
				三角関数	○					
				三角関数のグラフ		○	○			
				三角関数の性質	○					
				三角関数の応用		○				
			加法定理	加法定理			○			
				加法定理の応用			○			
後期	指数関数と対数関数	15	指数関数	指数の拡張	○	○		a: 指数の拡張と対数に関心をもち、それらの考察に活用しようとする。 b: 累乗や対数の可能性を考察し表現できる。 c: 指数や対数を含んだ式の計算ができる。 d: 指数や対数の扱いを理解できる。	授業への取り組み 定期試験 課題等	
				指数関数			○			○
			対数関数	対数とその性質	○					
				対数関数			○			
				常用対数			○			
	微分と積分	17	微分係数と導関数	微分係数	○			a: 微分係数に関心をもち、接線の方程式などの考察に活用しようとする。 b: 導関数を用いて関数の値の増減について考察し表現することができる。 c: 導関数を用いて、3次関数のグラフをかき、極値を求める、方程式に應用するなどができる。 d: 不定積分、定積分と面積の関係を理解できる。	授業への取り組み 定期試験 レポート 課題等	
				導関数とその計算		○				
			関数の値の変化	接線の方程式	○					
				関数の増減と極大極小		○				
			積分法	関数の増減・グラフの応用			○			
				不定積分			○			
				定積分			○			
				定積分面積			○			
合計時数(55分授業)		96								

令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	数学・数学Ⅱ(β)	学年	第2学年	教科書	数研出版「改訂版 数学Ⅱ」
		単位数	4単位	副教材	数研出版「サクシード 数学Ⅱ+B」 数研出版「Focus Gold 数学Ⅱ+B」

学習目標  
 いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分法と積分法について、基礎的な知識や技能を習得する。事象を数学的に考察し表現する能力を養うことで数学のよさを理解できるようにする。

学習方法  
 ○授業においては、定義・公式・例題を理解し、練習問題を自ら考える。疑問点は積極的に質問する。  
 ○復習を心がけ、毎週末には必ず1週間に学んだ内容を理解できているか確認する。  
 ○授業用と問題集用のノートを用意し、幅広く多くの問題を解き、基礎力の徹底、応用力の向上を図る。

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨			
	a	関心・意欲・態度	いろいろな式、図形と方程式、三角関数、指数関数・対数関数及び微分法と積分法の考え方に関心を持つとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。			
b	数学的な見方や考え方	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、いろいろな式、図形と方程式、三角関数、指数関数・対数関数及び微分法と積分法について、数学的な見方や考え方を身に付けている。				
c	数学的な技能	いろいろな式、図形と方程式、三角関数、指数関数・対数関数及び微分法と積分法において、事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。				
d	知識・理解	いろいろな式、図形と方程式、三角関数、指数関数・対数関数及び微分法と積分法における基本的な理念、原理・法則、用語・記号などを理解し、知識を身に付けている。				

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
前期	式と証明	18	式と計算	3次式の展開と因数分解	○				a: 整式の四則計算に関心をもち、それらを四則計算の考察に活用しようとする。 b: 二項定理を用いた展開式や恒等式についてを考察することができる。 c: 等式、不等式の証明ができる。 d: 等式、不等式の証明における証明方法、式の扱い方を理解できる。	授業への取り組み 定期試験 レポート 課題等
				二項定理		○				
前期	複素数と方程式	12	複素数と方程式	整式の割り算	○				a: 2次方程式の解を求める際、複素数に関心をもち、それらの考察に活用しようとする。 b: 解と係数の関係を用いて考察し表現することができる。 c: 因数定理を用いた因数分解ができる。 d: 解と係数の関係や高次方程式の解き方を理解できる。	授業への取り組み 定期試験 課題等
				分数式とその計算	○					
前期	図形と方程式	34	点と直線	恒等式		○			a: 直線上、平面上の点や直線の方程式に関心をもち、2直線の関係の考察に活用しようとする。 b: 軌跡の方程式や不等式の表す領域について考察し、表現することができる。 c: 円と直線、2つの円の関係について考察し、扱いなどの技能を身に付けている。 d: 円と直線、2つの円の関係の調べる方法を理解できる。	授業への取り組み 定期試験 レポート 課題等
				等式と不等式の証明			○	○		
前期	三角関数	20	三角関数	直線上の点	○				a: 三角関数の性質に関心をもち、それらの考察に活用しようとする。 b: 三角関数の性質をグラフを用いて考察し表現することができる。 c: 加法定理(2倍角・半角の公式)を用いて、様々な角の三角関数の値を求めることができる。 d: 三角関数のグラフや三角関数の合成について理解できる。	授業への取り組み 定期試験 レポート 課題等
				平面上の点	○					
後期	指数関数と対数関数	20	指数関数と対数関数	直線の方程式	○				a: 指数の拡張と対数に関心をもち、それらの考察に活用しようとする。 b: 累乗や対数の可能性を考察し表現できる。 c: 指数や対数を含んだ式の計算ができる。 d: 指数や対数の扱いを理解できる。	授業への取り組み 定期試験 課題等
				2直線の関係	○					
後期	微分と積分	24	微分法	円の方程式			○	○	a: 微分係数に関心をもち、接線の方程式などの考察に活用しようとする。 b: 導関数を用いて関数の値の増減について考察し表現することができる。 c: 導関数を用いて、3次関数のグラフをかき、極値を求める。方程式に応用することができる。 d: 不定積分、定積分と面積の関係を理解できる。	授業への取り組み 定期試験 レポート 課題等
				円と直線			○	○		
後期	微分と積分	24	導関数の応用	2つの円			○	○	a: 微分係数に関心をもち、接線の方程式などの考察に活用しようとする。 b: 導関数を用いて関数の値の増減について考察し表現することができる。 c: 導関数を用いて、3次関数のグラフをかき、極値を求める。方程式に応用することができる。 d: 不定積分、定積分と面積の関係を理解できる。	授業への取り組み 定期試験 レポート 課題等
				軌跡と領域		○				
後期	微分と積分	24	積分法	一般角と弧度法	○				a: 微分係数に関心をもち、接線の方程式などの考察に活用しようとする。 b: 導関数を用いて関数の値の増減について考察し表現することができる。 c: 導関数を用いて、3次関数のグラフをかき、極値を求める。方程式に応用することができる。 d: 不定積分、定積分と面積の関係を理解できる。	授業への取り組み 定期試験 レポート 課題等
				三角関数の性質	○					
後期	微分と積分	24	積分法	三角関数のグラフ		○	○		a: 微分係数に関心をもち、接線の方程式などの考察に活用しようとする。 b: 導関数を用いて関数の値の増減について考察し表現することができる。 c: 導関数を用いて、3次関数のグラフをかき、極値を求める。方程式に応用することができる。 d: 不定積分、定積分と面積の関係を理解できる。	授業への取り組み 定期試験 レポート 課題等
				三角関数の応用		○				
後期	微分と積分	24	積分法	三角関数の合成			○	○	a: 微分係数に関心をもち、接線の方程式などの考察に活用しようとする。 b: 導関数を用いて関数の値の増減について考察し表現することができる。 c: 導関数を用いて、3次関数のグラフをかき、極値を求める。方程式に応用することができる。 d: 不定積分、定積分と面積の関係を理解できる。	授業への取り組み 定期試験 レポート 課題等
				指数の拡張	○	○				
後期	微分と積分	24	積分法	指数関数			○	○	a: 微分係数に関心をもち、接線の方程式などの考察に活用しようとする。 b: 導関数を用いて関数の値の増減について考察し表現することができる。 c: 導関数を用いて、3次関数のグラフをかき、極値を求める。方程式に応用することができる。 d: 不定積分、定積分と面積の関係を理解できる。	授業への取り組み 定期試験 レポート 課題等
				対数とその性質	○					
後期	微分と積分	24	積分法	常用対数			○	○	a: 微分係数に関心をもち、接線の方程式などの考察に活用しようとする。 b: 導関数を用いて関数の値の増減について考察し表現することができる。 c: 導関数を用いて、3次関数のグラフをかき、極値を求める。方程式に応用することができる。 d: 不定積分、定積分と面積の関係を理解できる。	授業への取り組み 定期試験 レポート 課題等
				微分係数	○					
後期	微分と積分	24	積分法	導関数の応用		○			a: 微分係数に関心をもち、接線の方程式などの考察に活用しようとする。 b: 導関数を用いて関数の値の増減について考察し表現することができる。 c: 導関数を用いて、3次関数のグラフをかき、極値を求める。方程式に応用することができる。 d: 不定積分、定積分と面積の関係を理解できる。	授業への取り組み 定期試験 レポート 課題等
				接線	○					
後期	微分と積分	24	積分法	関数の値の変化		○			a: 微分係数に関心をもち、接線の方程式などの考察に活用しようとする。 b: 導関数を用いて関数の値の増減について考察し表現することができる。 c: 導関数を用いて、3次関数のグラフをかき、極値を求める。方程式に応用することができる。 d: 不定積分、定積分と面積の関係を理解できる。	授業への取り組み 定期試験 レポート 課題等
				最大値・最小値			○			
後期	微分と積分	24	積分法	不定積分				○	a: 微分係数に関心をもち、接線の方程式などの考察に活用しようとする。 b: 導関数を用いて関数の値の増減について考察し表現することができる。 c: 導関数を用いて、3次関数のグラフをかき、極値を求める。方程式に応用することができる。 d: 不定積分、定積分と面積の関係を理解できる。	授業への取り組み 定期試験 レポート 課題等
				定積分				○		
後期	微分と積分	24	積分法	面積				○	a: 微分係数に関心をもち、接線の方程式などの考察に活用しようとする。 b: 導関数を用いて関数の値の増減について考察し表現することができる。 c: 導関数を用いて、3次関数のグラフをかき、極値を求める。方程式に応用することができる。 d: 不定積分、定積分と面積の関係を理解できる。	授業への取り組み 定期試験 レポート 課題等
				面積				○		
合計時数(55分授業)		128								

令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	数学・数学B	学年	第2学年	教科書	数研出版「数学B 改訂版」
		単位数	2単位	副教材	数研出版「サクシード 数学II+B 改訂版」

**学習目標**  
 数列およびベクトルについて、基礎的な知識や技能を習得します。事象を数学的に考察し表現する能力を養うことで数学のよさを理解できるようにします。

**学習方法**  
 ○授業においては、定義・公式・例題を理解し、練習問題を自ら考えましょう。疑問点は積極的に質問しましょう。  
 ○復習を心がけ、毎週末には必ず1週間に学んだ内容を理解できているか確認しましょう。  
 ○授業用と問題集用のノートを用意し、幅広く多くの問題を解き、基礎力の徹底、応用力の向上を図りましょう。

評価の観点		科目の評価の観点の趣旨
a	関心・意欲・態度	数列、ベクトルの考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。
b	数学的な見方や考え方	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数列、ベクトルにおける数学的な見方や考え方を身に付けている。
c	数学的な技能	数列、ベクトルにおいて、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。
d	知識・理解	数列、ベクトルにおける基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。

※定期テストに関しては、上記の観点について学習内容に応じて配分する。

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
前期	(1) 平面上のベクトル	16	平面上のベクトルとその演算	平面上のベクトル	○	○			a:ベクトルの基本的な概念に関心を持ち、考察に活用しようとする。 b:位置ベクトルや内積などを用いて形式的な処理ができることを理解し、いろいろな平面図形の性質の考察をすることができる。 c:ベクトルの演算について、数の演算と類似の法則が成り立つことを理解し、その演算をすることができる。 d:ベクトルの意味、相等、和、差、実数倍、位置ベクトル、成分表示、内積及び基本的な性質について理解している。	授業への取り組み 定期試験 小テスト レポート 課題等
				ベクトルの演算	○					
				ベクトルの成分		○	○			
				ベクトルの内積			○	○		
	(2) 空間のベクトル	16	空間のベクトル	位置ベクトル	○					
				ベクトルと平面図形			○	○		
				ベクトル方程式		○		○		
後期	(3) 数列	26	数列とその和	数列	○			○	a:等差数列や等比数列、その他の数列とその和に関心を持ち、それらを活用しようとしている。 b:等差数列や等比数列、その他の数列とその和を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、等差数列と等比数列、いろいろな数列における数学的な見方や考え方を身に付けている。 c:いろいろな数列の一般項や和について、その求め方を理解し、事象の考察に活用する。 d:等差数列と等比数列について理解し、それらの一般項及び和を求めることができる。	授業への取り組み 定期試験 小テスト レポート 課題等
				等差数列とその和	○		○			
				等比数列とその和		○	○			
				和の記号Σ	○	○				
				階差数列			○	○		
				いろいろな数列の和		○	○			
	数学的帰納法	6	漸化式と数列	漸化式と数列				○	a:漸化式や数学的帰納法の考え方に関心をもつとともに、それらのよさを認識し、考察に活用しようとしている。 b:漸化式や数学的帰納法について理解し、それらを考察・表現したりすることができる。 c:簡単な漸化式で表された数列の一般項を求めることや、数学的帰納法を用いて簡単な命題の証明をすることができる。 d:漸化式や数学的帰納法の意味、その有用性を理解している。	授業への取り組み 定期試験 小テスト レポート 課題等
数学的帰納法					○	○				
合計時数(55分授業)		64								

# 令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	理科・物理基礎	学年	第2学年	教科書	数研出版「改訂版 物理基礎」
		単位数	2単位	副教材	第一学習社「セミナー物理基礎」

学習目標	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業における課題に対して自ら考え、また、周りの生徒と共同で考える活動を行います。</li> <li>○ 復習を心がけ、各単元終了ごとに教科書やノートの内容が理解できているかどうか確認しましょう。</li> <li>○ 家庭学習において副教材等を活用し、演習問題を数多く解き、理解を深めましょう。</li> </ul>

学習評価	評価の観点	科目の評価の観点の趣旨
	a	関心・意欲・態度
b	思考・判断・表現	物体の運動と様々なエネルギーに関する事象・現象の中に問題を見いだし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現する方法を身に付けている。
c	観察・実験の技能	物理的な事象・現象に関する観察・実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事象・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。
d	知識・理解	物体の運動と様々なエネルギーについて、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

※ 定期テストに関しては、上記四つの観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法	
					a	b	c	d			
前期	(1)力学・熱力学	23	運動とエネルギー	運動の表し方	○		○	○	a: 物体の運動に興味を示し、その法則性を物理的に理解しようとする。 b: 物体の運動を表す変位や速度を、その公式からとらえ、考えることができる。物体にはたらくすべての力を図示し、運動方程式を考えることができる。 c: 探究活動を通じて、力と運動に関する法則性を導くことを確認する。 d: 物体のエネルギーと物体にはたらく力、仕事との関係を理解する。	・定期試験 ・実験レポート ・小テスト ・課題 ・授業への取り組み	
				運動の法則	○	○	○	○			
				仕事と力学的エネルギー	○		○	○			
		9	熱とエネルギー	熱と熱量	○		○	○	a: 熱とはどういうものか興味をもって考え、熱とエネルギーの関係を考える。 b: 温度の異なる物体が接すると熱が移動すること、物体によって温まり方が異なることなど、熱の移動について考える。 c: 仕事によって、運動エネルギーは熱に変換されることを理解する。 d: 摩擦などによる仕事は熱に変換され、そのエネルギー量は変化しないことを理解する。	・定期試験 ・実験レポート ・小テスト ・課題 ・授業への取り組み	
熱と物質の状態	○		○	○							
熱と仕事	○	○	○	○							
不可逆変化と熱機関	○	○		○							
後期	(2)波動力学	21	波	波の性質	○	○	○	○	a: 身のまわりにはさまざまな波があることに興味を示し、波が移動するとき何が伝わっているか考える。 b: 波が移動する現象を学習し、波が伝わる際の一般的な公式を考える。 c: 横波と縦波が伝わるようすを観察し、波の伝わり方とそれぞれの波の特徴を理解する。 d: 音が縦波であり、波の性質をもつことを理解する。	・定期試験 ・実験レポート ・小テスト ・課題 ・授業への取り組み	
				音	○		○	○			
	(3)電気とエネルギーとその利用	9	電気	物質と電気抵抗	○	○		○	a: 日常生活と密着した関わりのある電気の性質を意欲的に考える。 b: 抵抗に電流が流れるとき、電圧と電流の関係について考える。太陽エネルギーの直接、間接的な利用を学習し、エネルギーの循環を理解する。 c: 携帯電話をアルミニウムホイルで包み、電波の遮断を確認する。 d: 直流と交流の性質、交流の有用性を理解する。身の回りには、電気、磁気を利用したさまざまなものがあることを理解する。携帯電話の小型化への技術の進化を理解する。	・定期試験 ・実験レポート ・小テスト ・課題 ・授業への取り組み	
				交流と電磁波	○		○	○			
			2	物理学と社会	エネルギーとその利用	○	○		○	a: 日常生活と密着した関わりのある電気の性質を意欲的に考える。 b: 抵抗に電流が流れるとき、電圧と電流の関係について考える。太陽エネルギーの直接、間接的な利用を学習し、エネルギーの循環を理解する。 c: 携帯電話をアルミニウムホイルで包み、電波の遮断を確認する。 d: 直流と交流の性質、交流の有用性を理解する。身の回りには、電気、磁気を利用したさまざまなものがあることを理解する。携帯電話の小型化への技術の進化を理解する。	・定期試験 ・実験レポート ・小テスト ・課題 ・授業への取り組み
					物理学が拓く世界	○		○	○		
合計時数(55分授業)		64									

令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	理科・化学	学年	第2学年	教科書	数研出版「改訂版 化学」
		単位数	3単位	副教材	数研出版「四訂版 リードα化学」 実教出版「四訂版 サイエンスビュー化学総合資料」

学習目標  
日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察・実験などを行い、化学的に探究する能力を育むとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養いましょう。

学習方法  
○必要に応じてノート等を準備し、必要に応じて活用しましょう。  
○演示実験や生徒実験を通して実験の基本操作を習得し、データの処理の仕方を身に付けましょう。  
○演習問題を数多く解き、計算問題などの解答能力を習得しましょう。

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨
	a	関心・意欲・態度	化学的な事物・現象に関心や探究心を持ち、主体的に探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。
	b	思考・判断・表現	化学的な事物・現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
	c	観察・実験の技能	化学的な事物・現象に関する観察・実験などを行い、基本操作を習得するとともにそれらの過程や結果を的確に記録・整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。
	d	知識・理解	化学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身に付けている。

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
前期	物質の状態	6	粒子の結合と結晶の構造	化学結合	○	○	○	○	a:物質の構造や性質に関心を持ち、意欲的に探究しようとしている。 b:化学結合と結晶の種類・状態変化との関連性について考察できる。 c:観察や実験の過程から、自らの考え方を導き出した報告書を作成することができる。 d:物質の構造や性質に関する基本的な概念を理解し、知識を身に付けている。	授業への取り組み 小テスト 定期テスト 実験レポート
				結晶の種類と性質	○	○	○	○		
		6	物質の三態と状態変化	粒子の熱運動	○	○	○	○	a:気体・溶液の成り立ちや性質に関心を持ち、意欲的に探究しようとしている。 b:気体や溶液について、共通に成り立つ法則について理解している。 c:観察や実験の過程から、自らの考え方を導き出した報告書を作成することができる。 d:各種法則の定義を理解し、知識を身に付けている。	
				状態変化とエネルギー	○	○	○	○		
		6	気体	理想気体の性質	○	○	○	○	a:気体・溶液の成り立ちや性質に関心を持ち、意欲的に探究しようとしている。 b:気体や溶液について、共通に成り立つ法則について理解している。 c:観察や実験の過程から、自らの考え方を導き出した報告書を作成することができる。 d:各種法則の定義を理解し、知識を身に付けている。	
				実在気体	○	○	○	○		
	6	溶液	溶解とそのしくみ/溶解度	○	○	○	○	a:気体・溶液の成り立ちや性質に関心を持ち、意欲的に探究しようとしている。 b:気体や溶液について、共通に成り立つ法則について理解している。 c:観察や実験の過程から、自らの考え方を導き出した報告書を作成することができる。 d:各種法則の定義を理解し、知識を身に付けている。		
			コロイド溶液	○	○	○	○			
	物質の変化	6	化学反応とエネルギー	化学反応と熱	○	○	○	○	a:化学反応とエネルギーの関係に関心を持ち、意欲的に探究しようとしている。 b:反応熱や電子の物質と化学変化の量的関係を理解している。 c:観察や実験の過程から、自らの考え方を導き出した報告書を作成することができる。 d:物質の概念で化学変化の量的関係を把握する方法を理解し、知識を身に付けている。	
				化学反応と光	○	○	○	○		
		6	電池と電気分解	電池	○	○	○	○	a:化学反応の根本的なしくみに関心を持ち、意欲的に探究しようとしている。 b:反応速度や化学平衡の概念と化学変化の量的関係を理解している。 c:観察や実験の過程から、自らの考え方を導き出した報告書を作成することができる。 d:物質の概念で化学変化の量的関係を把握する方法を理解し、知識を身に付けている。	
				電気分解	○	○	○	○		
6		化学反応の速さ	化学反応の速さとしくみ	○	○	○	○	a:化学反応の根本的なしくみに関心を持ち、意欲的に探究しようとしている。 b:反応速度や化学平衡の概念と化学変化の量的関係を理解している。 c:観察や実験の過程から、自らの考え方を導き出した報告書を作成することができる。 d:物質の概念で化学変化の量的関係を把握する方法を理解し、知識を身に付けている。		
			反応条件と反応速度	○	○	○	○			
6	化学平衡	可逆反応と平衡状態の変化	○	○	○	○	a:化学反応の根本的なしくみに関心を持ち、意欲的に探究しようとしている。 b:反応速度や化学平衡の概念と化学変化の量的関係を理解している。 c:観察や実験の過程から、自らの考え方を導き出した報告書を作成することができる。 d:物質の概念で化学変化の量的関係を把握する方法を理解し、知識を身に付けている。			
後期	無機物質	7	非金属元素	元素の分類と周期表	○	○	○	○	a:無機物質の単体や化合物に関心を持ち、意欲的に探究しようとしている。 b:周期表上における元素の陽性や陰性の傾向について理解し、性質に関連付けることができる。 c:観察や実験の過程から、自らの考え方を導き出した報告書を作成することができる。 d:無機物質の性質について理解を深め、知識を身に付けている。	
				各元素とその化合物	○	○	○	○		
		7	金属元素	金属元素(I)	○	○	○	○	a:無機物質の単体や化合物に関心を持ち、意欲的に探究しようとしている。 b:周期表上における元素の陽性や陰性の傾向について理解し、性質に関連付けることができる。 c:観察や実験の過程から、自らの考え方を導き出した報告書を作成することができる。 d:無機物質の性質について理解を深め、知識を身に付けている。	
				金属元素(II)	○	○	○	○		
	有機化合物	18	低分子化合物	有機化合物の分類と分析	○	○	○	○	a:有機低分子化合物に関心を持ち、意欲的に探究しようとしている。 b:有機化合物の性質について理解し、体系的にまとめることができる。 c:観察や実験の過程から、自らの考え方を導き出した報告書を作成することができる。 d:有機化合物の性質について理解を深め、知識を身に付けている。	
				脂肪族炭化水素	○	○	○	○		
				アルコールと関連化合物	○	○	○	○		
				芳香族化合物	○	○	○	○		
	高分子化合物	8	天然有機化合物	天然有機化合物	○	○	○	○	a:天然有機化合物・高分子化合物に関心を持ち、意欲的に探究しようとしている。 b:高分子化合物の種類や性質について理解し、体系的にまとめることができる。 c:観察や実験の過程から、自らの考え方を導き出した報告書を作成することができる。 d:天然有機化合物・高分子化合物の種類や性質について理解を深め、知識を身に付けている。	
				天然高分子化合物	○	○	○	○		
		8	合成高分子化合物	高分子化合物の性質	○	○	○	○	a:天然有機化合物・高分子化合物に関心を持ち、意欲的に探究しようとしている。 b:高分子化合物の種類や性質について理解し、体系的にまとめることができる。 c:観察や実験の過程から、自らの考え方を導き出した報告書を作成することができる。 d:天然有機化合物・高分子化合物の種類や性質について理解を深め、知識を身に付けている。	
				合成高分子化合物	○	○	○	○		
合計時数(55分授業)		96								

令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	保健体育・体育	学年	第2学年	教科書	
		単位数	2単位	副教材	大修館書店「ステップアップ高校スポーツ2020」

学習目標  
 ・自ら希望する種目を選択し、楽しみながら学ぶ喜びを知ることができるようにする。  
 ・基礎体力を向上できるようにする。  
 ・基本的技能を修得できるようにする。  
 ・試合の進め方、方法、ルールを理解できるようにする。

学習方法  
 ○授業における課題に対して自ら考えられるような活動を行う。  
 ○学習ノート、補助プリント等を利用する。  
 ○互いに協力し、自己の責任を果たせるようグループでの活動を行う。

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨
	a	関心・意欲・態度	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに意欲をもち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。
b	思考・判断	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。	
c	運動の技能	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。	
d	知識・理解	選択した運動の技術(技)の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。	

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
前期	体づくり運動(全員)	3	体づくり運動	・体操 ・基礎練習 ・応用練習 ・トレーニング	○	○			a:仲間と協力し、積極的に運動に参加している。 b:自分の体力を把握し、適切な目標を設定できる。 d:体づくりの意義を理解している。	・授業への取り組み
	球技(全種目男女)	13	・ソフトボール ・テニス ・バスケットボール	・体操 ・基礎練習 ・応用練習 ・ゲーム(試合)	○	○	○		a:ルールを守り、公正な態度で練習や試合を行っている。 b:ゲームに必要なルールや審判法を知っている。 c:基本的な技術を向上させることができる。 d:基本的な技術を実践で生かせる。	・授業への取り組み
	・水泳 ・器械運動 ・陸上競技(全種目男女)	13	・水泳 ・器械運動 ・陸上競技	・体操 ・基礎練習 ・応用練習 ・記録測定	○	○	○		水泳 a:記録の向上の喜びや競泳の楽しさなどを味わっている。 b:自己の目標を達成するための練習を計画している。 器械運動 b:自己に合った技を選択している。 c:技の習得し、演技の構成をすることができる。 陸上競技 c:自己の記録を向上するための各種の技能を高めることができる。 d:自己の記録を向上するための方法を理解している。	・授業への取り組み ・記録 ・試験
	体育理論	3	体育理論	運動・スポーツの学び方	○	○	○		a:運動・スポーツの学び方について理解し、諸問題について学ぼうとしている。 b:運動・スポーツの学び方の問題点を考えている。 d:運動・スポーツの学び方の問題について理解している。	・授業への取り組み ・レポート
後期	武道・ダンス(全種目男女)	10	・柔道 ・剣道 ・ダンス	・体操 ・基礎練習 ・応用練習(発表)	○	○	○		武道 a:積極的に技を覚えている。 b:自己の能力に応じて練習を工夫できる。 d:武道に対する伝統的な考え方を理解している。 ダンス a:曲に合わせて、楽しく取り組んでいる。 b:自己の能力に応じた課題を選び、自ら考え工夫することができる。	・授業への取り組み ・記録 ・試験
	球技(全種目男女)	11	・サッカー ・テニス ・バドミントン	・体操 ・基礎練習 ・応用練習 ・ゲーム(試合)	○	○	○		a:ルールを守り、公正な態度で練習や試合を行っている。 b:ゲームに必要なルールや審判法を知っている。 c:基本的な技術を向上させることができる。 d:基本的な技術を実践で生かせる。	・授業への取り組み
	陸上競技(全員)	8	持久走	・体操 ・ジョギング ・タイム測定	○	○	○		a:持久走の必要性を理解し、積極的に取り組んでいる。 b:体に負担の少ない走り方を考えている。 c:自己のベスト記録を更新することができる。 d:自己の能力を判断し、適切な目標タイムを設定できる。	・授業への取り組み ・記録
	体育理論	3	体育理論	運動・スポーツの学び方	○	○	○		a:運動・スポーツの学び方について理解し、諸問題について学ぼうとしている。 b:運動・スポーツの学び方の問題点を考えている。 d:運動・スポーツの学び方の問題について理解している。	・授業への取り組み ・レポート
合計時数(55分授業)		64								

令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	保健体育・保健	学年	第2学年	教科書	大修館書店「現代高等保健体育 改訂版」
		単位数	1単位	副教材	大修館書店「図説現代高等保健」

学習目標	健康を保持増進するために適切な生活行動を選択し実践できるようにする。 また、環境を改善していく能力を身に付けられるようにする。
------	--------------------------------------------------------------------

学習方法	○授業における課題に対して自ら考えられるような活動を行う。 ○ノート、補助プリント等を利用する。 ○テーマに沿ったレポートを作成し、発表する。
------	-------------------------------------------------------------------------------

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨
	a	関心・意欲・態度	私たちの健康について、関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。
	b	思考・判断	私たちの健康について、課題の解決を目指して考え、判断している。
	d	知識・理解	私たちの健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。
※定期試験に関しては、上記3つの観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。			

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点			単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	d		
前期	生涯を通じる健康	8	生涯の各段階における健康	思春期と健康	○	○	○	a:生涯の各段階における健康課題を理解し、健康問題について課題を解決しようと意欲的に取り組んでいる。 b:学習した内容を身に付け、自己の生活改善に役立てようとしている。 d:思春期の体の変化や精神的な不安および対処について理解している。また不正確な性情報に惑わされない知識を持っている。受精、妊娠、出産という一連の流れおよび人工妊娠中絶の法律や内容について理解している。	・授業への取り組み ・試験
				結婚生活と健康	○	○	○		
				加齢と健康	○	○	○		
8	保健・医療制度と地域の保健・医療機関	我が国の保健・医療制度	○	○	○				
		地域の保健・医療機関の活用	○	○	○				
	様々な保健活動や対策	○	○	○					
後期	社会生活と健康	5	環境と健康	環境の汚染と健康	○	○	○	a:環境問題についてよく理解し、健康問題について課題を解決しようと意欲的に取り組んでいる。 b:学習した内容を身に付け、自己の生活改善に役立てようとしている。 d:環境と食品にかかわって、どのような保健活動がおこなわれているかについて理解している。ゴミ処理の現状や循環型社会の重要性および上下水道の現状と問題点を理解している。	・授業への取り組み ・試験 ・発表 ・レポート
				環境と健康にかかわる対策	○	○	○		
		6	環境と食品の保健	環境衛生にかかわる活動	○	○	○		
				食品保健にかかわる活動	○	○	○		
				健康の保持増進のための環境と食品の保健	○	○	○		
		5	労働と健康	労働災害と健康	○	○	○		
働く人の健康の保持増進	○			○	○				
合計時数(55分授業)		32							



令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	芸術・音楽Ⅱ	学年	第2学年	教科書	教育出版「高校音楽Ⅱ改訂版 Music View」
		単位数	2単位	副教材	教育芸術社「3訂版 高校生のための音楽研究ノート」

**学習目標**  
 音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。

**学習方法**  
 ○技能の習得には継続的な取り組みが必要です。特に発声は成長とともに変化します。授業時間を無駄にせず、焦らずあきらめずに練習し、音楽Ⅰで習得したものを発展させましょう。  
 ○楽譜に関する理解や鑑賞は演奏と深く結び付いています。十分に理解するよう取り組みましょう。  
 ○他の生徒の演奏を聴いたり、自分の演奏を聴いてもらったりしながら、表現方法を話し合ってみましょう。

評価の観点		科目の評価の観点の趣旨
a	音楽への関心・意欲・態度	音楽や音楽文化に関心をもち、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に積極的に取り組もうとしている。
b	音楽表現の創意工夫	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを理解しながら、歌唱、器楽、創作の音楽表現を工夫し、どのように歌うか、演奏するか、音楽をつくるかについて表現意図をもってしている。
c	音楽表現の技能	創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を十分に身に付けている。
d	鑑賞の能力	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを理解しながら、楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって聴いている。

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法	
					a	b	c	d			
前期	A 表現	13	(1)歌唱	独唱	○	○	○		a: 歌唱に興味を持ち、発声・発音練習等にも主体的に取り組んでいる。 b: 楽曲の形式や音楽的な特徴を理解し、それらの働きを生かしながら、表現を工夫している。 c: 楽曲のジャンルや表現形態に応じた歌唱方法を身に付けている。	・授業への取り組み ・実技テスト ・自己評価	
		11	(2)器楽	箏曲合奏	○	○	○		a: 箏曲に興味を持ち、楽器や道具の扱いを十分に身に付けている。 b: 日本音楽の特徴を十分に理解し、和の味わいを生かしながら、楽曲の構成を踏まえた演奏表現を工夫している。 c: 音色と表現の関係を理解し、正しい技術を身に付けている。	・授業への取り組み ・演奏発表兼実技テスト ・相互評価	
		6	(3)創作	楽典	○	○			a: コードネームに興味を持ち、学習に取り組んでいる。 c: 学んだ知識を実際の楽曲に生かしている。	・授業への取り組み ・小テスト	
	B 鑑賞	2	(4)鑑賞	音楽の役割(音楽劇)	○			○	a: 歌唱表現に興味を持ち、その良さを感じながら鑑賞している。 d: 声の音色や特徴と表現上の効果とのかかわりを理解している。	・授業への取り組み ・提出物	
後期	A 表現	12	(1)歌唱	合唱	○	○	○		a: 合唱に興味を持ち、個人練習・パート練習にも積極的に取り組んでいる。 b: 楽曲の構成、詩と旋律・ハーモニーの関係、音楽的な特徴などを理解し、それらを生かした表現になるよう取り組んでいる。 c: 楽曲のジャンルや表現形態に応じた歌唱方法、合唱の歌唱技術を身に付けている。	・授業への取り組み ・実技テスト	
		12	(2)器楽	ギター二重奏	○	○	○		a: ギターに興味を持ち、楽器や道具の扱いに注意しながら地道に取り組んでいる。 b: ギターや弦楽器の特徴を十分に理解し、自らの技能にあった演奏表現を工夫している。 c: 音色と表現の関係を理解し、正しい技術を身に付けている。	・授業への取り組み ・実技テスト	
		6	(3)創作	ボイス・アンサンブル	○	○			a: 創作に興味を示し、積極的に取り組んでいる。 b: 歌唱や器楽で習得した技能と知識とが結びつき、音楽性豊かな表現になるよう取り組んでいる。	・演奏発表兼実技テスト ・相互評価	
	B 鑑賞	2	(4)鑑賞	伝統芸能	○			○	a: 物語や表現方法に興味を持ち、その良さを感じながら鑑賞している。 d: 作品の構成や音楽の特徴と表現上の効果とのかかわりを理解している。	・授業への取り組み ・提出物	
合計時数(55分授業)		64									

令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	芸術・美術Ⅱ	学年	第2学年	教科書	日本文教出版社「高校生の美術2」
		単位数	2単位	副教材	

**学習目標**  
1年次での学習を基盤に美術の専門的技術力を身に付けている。多様な制作活動を通して、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むよう努力する。多角的に感性を高め、芸術における諸能力を伸ばす。さらに内外の芸術文化についての理解を深め、豊かな情操と教養を身に付ける。

**学習方法**  
○美術Ⅰを基礎とし、さらに発展的な創造活動を実践し、国際的な感覚も育みつつ、自らの主体的な考えで作品づくりに取り組みます。  
○制作を通して空間把握力を身に付け、自然と自己とのつながりを見つめ直し、高校生活の充実を図ります。  
○生徒ひとり一人が美術を通じた社会への役割と繋がりを考え、積極的に各種コンクールにも出品し、社会性を身につけましょう。さらに未来に向けての夢と希望を考えた作品づくりを目指しましょう。

学習評価	評価の観点	科目の評価の観点の趣旨
	a	美術への関心・意欲・態度
b	発想や構想の能力	感性や想像力を働かせて、自然、自己、社会などを深く見つけ主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。
c	創造的な技能	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身につけ、主題に合った表現方法を工夫し、創造的に表している。
d	鑑賞の能力	美術作品の表現の工夫や心豊かな生き方の創造に関わる美術の働き、美術文化などを理解し、その良さや美しさを創造的に味わっている。

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
前期	オリエンテーション 表現・鑑賞	16	デザイン (平面構成) 鑑賞	・文字から発想するデザイン ・アクリル絵の具の表現技法	○	○	○	○	a文字から発想したデザインを工夫して構成しようと努力している。 b自らの思考を美術的感性を生かして画面構成や色彩を工夫している。 cアクリル絵の具の特徴を生かして美しく表現できる技能を身に付けている。 dお互いの作品と鑑賞し良さを味わっている。	・授業への取り組みと活動観察 ・提出作品 ・アイディアスケッチ ・ワークシート
			絵画 (風景写生) 夏休み (自主課題)	・水彩画の技法 ・風景と構図 ・絵画と写真の違いを理解	○	○	○	○	a身近な校内風景の中から、自らが美しいと思える風景を探し出せるように努力している。 b実景から切り取った構図を写生に生かすことができる。 cサイズの大きな画面にアクリル絵の具を使って表現できるよう水彩技法の基本を身に付けている。 d他人の作品から構図や技術的な特徴を見出し、自らの作品の良さを理解できる。	
後期	表現・鑑賞	20	立体 (模型の制作)	・立体(三次元)への理解と創造力	○	○	○	○	a「ある物語の一場面」をテーマに建築や構造に興味を持ち、積極的に理解しようと努力している。 b美術における造形活動として、自力で任意の形を創造・設計し、立体表現できる力を身に付けている。 c模型を細部にまでこだわって丁寧に制作に取り組んでいる。 dお互いの作品の良さを味わっている。どのようなコンセプトでデザインしたのか端的で明確なプレゼンテーションをすることができる。	・授業への取り組みと活動観察 ・提出作品 ・アイディアスケッチ ・鑑賞シート
			・版画 (ドライポイント版画) ・鑑賞 (芸術週間における生徒作品の鑑賞)	・様々な版画技法を学び、特徴を生かした表現を目指す。 ・他者の作品と比較して自らの表現の特質を理解	○	○	○	○	a2年間の学習の総まとめとして、生涯芸術を愛し、豊かな人生を送るための深い理解と関心を持ち続けようと努力している。芸術的付加価値を理解し身に付けようと努力している。 bc総合的な表現力と技法における応用力を身に付けている。 d芸術週間にて他人の作品の良さを理解し、自らの存在価値をも認められるよう、歴史に残る名品の数々の素晴らしさから総合力を身に付けている。	
合計時数(55分授業)		64								

令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	芸術・書道Ⅱ	学年	第2学年	教科書	光村図書出版「書Ⅱ」
		単位数	2単位	副教材	

**学習目標**  
書道の創造的な書活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

**学習方法**  
○表現は実技中心に授業を行い、基礎基本をふまえ発展的な内容を学習する。  
○鑑賞は作品の文化的・歴史的背景を理解し、より深く広い知識教養を身に付け多角的に書をとらえる。  
○表現するにあたり、目的や意図に基づく表現方法について考えを深め工夫する。

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨	
	a	b	a	b
a	書への関心・意欲・態度		書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	
b	書表現の構想と工夫		書表現の諸要素を感受し、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	
c	創造的な書表現の技能		創造的な書表現をするために、効果的な表現の技能を身に付け表している。	
d	鑑賞の能力		文字や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書の良さや美しさを創造的に味わっている。	

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
前期	表現・鑑賞	20	漢字の書	篆書の学習	○	○	○	○	a:篆書・篆刻の字形・線質・用筆に関心を持ち制作に主体的に取り組んでいる。 b:線質と用筆の関係を理解し、半紙・印面にうまく収まるよう文字の大きさや配置を工夫している。 c:用具用材の特徴を理解し、用筆や運筆を工夫し表現している。 d:互いに作品を鑑賞し合い、構成や技能のよい点を認め合っている。	提出作品 ワークシート 授業への 取り組み
				篆刻の学習	○	○	○	○		
		12	漢字仮名交じり書	半紙創作	○	○	○	○		
				変形作品制作	○	○	○	○		
後期	表現・鑑賞	10	仮名の書	仮名散らし書きの学習	○	○	○	○	a:仮名の空間を生かした散らし書きの構成に関心を持ち、作品制作に生かそうとしている。 b:書風や紙面構成などの構想を練り、個性的な表現を生み出そうと工夫している。 c:古典の表現技法を身に付け表現に生かしている。 d:互いに作品を鑑賞し、表現や紙面構成のよい点を認め合っている。	提出作品 ワークシート 授業への 取り組み
				14	漢字の書	草書の学習	○	○		
		隸書の学習	○			○	○	○		
		大作臨書	○			○	○	○		
	6	漢字仮名交じり書	大作制作	○	○	○	○	a:漢字と仮名の調和と線質との関係について関心を持ち、表現を高めようとしている。 b:表現の意図に応じて全体の構成、用具・用材などを工夫している。 c:自分が意図した書風を表現するのに必要な技能を身に付けている。 d:表現の効果を分析して筆者の意図や作品の美を感じ取り、優れた点を認め合う。		
2	鑑賞	鑑賞	芸術週間作品鑑賞	○			○	a:広く芸術作品について関心を持ち、理解を深めようとしている。 d:作品を鑑賞し自分なりの意見を持ち、説得力のある鑑賞文を書く力を身に付けている。	ワークシート 授業への 取り組み	
合計時数(55分授業)		64								

令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科	外国語	科目	コミュニケーション英語Ⅱ	単位数	4
教科書	東京書籍「PROMINENCE English CommunicationⅡ」		副教材	東京書籍「PROMINENCE English CommunicationⅡ WORKBOOK Standard」 いいずな書店「English Generator 4500 Plus 英単語・熟語」 Z会「速読英単語 必修編」 東京書籍「Listening Pilot level2.5」 桐原書店「Reading Flash Stage 2」 Z会「Reading Express Book 4」	

CAN-DO リストに基づく学習到達目標とその評価規準・評価方法

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	(評価方法) コミュニケーション活動への取組の観察	
外国語表現 の能力	話すこと	
	やり取り	発表
	<ul style="list-style-type: none"> <li>聞いたたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、伝えたり、意見の交換をしたりすることができる。</li> <li>他人の意見に対して、感想や意見を述べたりすることができる。</li> <li>聞き手に伝わるように暗唱したり、発表したりすることができる。</li> <li>適切な質問をして、インタビューをすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図表や絵に基づいて情報を整理し、説明することができる。</li> <li>表現を工夫して、相手に伝わるように話すことができる。</li> </ul>
	(評価方法) 課題及びスピーキングテスト (年2回)	
外国語理解 の能力	書くこと	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>聞いたたり読んだりしたことに基づき、要旨や自分の考えを6~10文で簡潔に書くことができる。</li> <li>学習した題材に関して発展的に情報を調べて6~10文で書くことができる。</li> <li>スピーチの原稿を書くことができる。</li> <li>事実について意見や感想を書くことができる。</li> </ul>	
	(評価方法) 課題及びライティングテスト (ライティングテストは年1回)	
	聞くこと	
外国語理解 の能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>人物や事物に関して、必要な情報を得ることができる。</li> <li>事物に関する説明や対話などを聞いて、考えや情報などの要点や詳細をとらえることができる。</li> <li>他人の意見を聞いて、自分の意見との共通点や相違点を理解することができる。</li> </ul>	
	(評価方法) 課題及び定期テスト・小テスト	
	読むこと	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>異文化コミュニケーション・日本文化・生物などに関する600~800語程度の英文を読んで、要点や詳細をとらえることができる。</li> <li>日本文化・芸術・社会問題などに関する800~1,100語程度の英文を読んで、要点や詳細をとらえることができる。</li> <li>文のつながりを示す語(句)などに注意しながら読むことができる。</li> <li>要点を整理しながら、読むことができる。</li> </ul>	
(評価方法) 課題及び定期テスト・小テスト		
言語や文化についての 知識・理解	(評価方法) 課題及び定期テスト・小テスト	

科目	コミュニケーション英語Ⅱ	学 期	前	時数 (65分授業)	64	単元	Lesson 1～5				
単元名	単元の評価規準 (学習到達目標)						評価方法				
	コミュニケーションへの関心・意欲・態度：コミュニケーションにおいて相手に共感することの重要性について積極的に理解しようとしている。 身近な人に共感を示すために、どのようなことができるか考えることができる。 (評価方法：活動の観察)						定期テスト 小テスト	パフォーマンス テスト	課題		
Lesson 1	外国語理解 の能力	L：共感力の大切さについて、聞いたことが理解できる。 R：共感力の大切さについて、読んだことが理解できる。						○			
	外国語表現 の能力	S：キーワードを使って、医者の共感力に関する実験について、口頭で説明できる。 W：自分の意見を英語で書くことができる。						○			
		・ 言語や文化に関する知識・理解：医者と患者のコミュニケーションなど共感力の重要性が問われる事例について理解している。						○			
	コミュニケーションへの関心・意欲・態度：廃線の再利用について関心を持ち、空中公園ができるまでにどのような問題があるのか、積極的に考えようとしている。 (評価方法：活動の観察)										
Lesson 2	外国語理解 の能力	L：廃線の再利用によるハイラインの建設について、聞いたことが理解できる。 R：廃線の再利用によるハイラインの建設について、読んだことが理解できる						○			
	外国語表現 の能力	S：ハイライン建設の過程を、時系列に要点を整理しながらとらえることができる。 W：エッセイの構成を理解し、理由を示しながら、自分の意見を書くことができる。						○			
		・ 言語や文化に関する知識・理解：ハイラインの存在について興味と理解を深めている。コミュニケーション活動が社会に与える影響について理解している。						○			
	コミュニケーションへの関心・意欲・態度：田邊氏の生き方や南極大陸の湖の生態系について関心を持ち、古代の地球生命との関係について意欲的に考えようとしている。 (評価方法：活動の観察)										
Lesson 3	外国語理解 の能力	L：聞いた内容に関する質問に英語で答えることができる。						○			
		R：読んだ内容に関する質問に英語で答えることができる。						○			
	外国語表現	S：インタビュースクリプトを作成し、ペアでインタビュー活動を行うことができる。						○			

	<p>の能力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>言語や文化に関する知識・理解：南極大陸の湖の特徴とその意味について理解している。</li> </ul>		○	○
Lesson 4	<p>コミュニケーションへの関心・意欲・態度：日本の伝統文化である盆葬について関心を持ち、文化の変容や多様化について積極的に理解しようとしている。</p> <p>(評価方法：活動の観察)</p> <p>外国語理解の能力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>L：国際的に人気が高まっている日本の盆葬について理解することができる。</li> <li>R：国際的に人気が高まっている日本の盆葬について理解することができる。</li> <li>S：本文中の人物を選び、ペアでインタビュアー活動を行うことができる。</li> <li>W：本文の感想や自分の意見をインタビュー形式で説明することができる。</li> </ul> <p>言語や文化に関する知識・理解：文化は時を経て、変容したり、多様化したことについて理解している。</p>		○	○
Lesson 5	<p>コミュニケーションへの関心・意欲・態度：クラゲについて知らなかった情報を積極的に知ろうとしている。</p> <p>(評価方法：活動の観察)</p> <p>外国語理解の能力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>L：クラゲに関して聞いたことを適切に理解することができる。</li> <li>R：クラゲに関して読んで読んで読んで読んことを適切に理解することができる。</li> </ul> <p>外国語表現の能力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>S：本文中の表現やポイントの作り方を参照しながら、英語でプレゼンテーションすることができる。</li> <li>W：キーワードを適切に用いながら、英語で要約を作成することができる。</li> </ul> <p>言語や文化に関する知識・理解：クラゲの生態と水質汚染や日本の食文化との関係性について理解している。</p>		○	○
備考	<p>授業中に、リスニングテストを随時行います。また、英作文を課題として提出します。パフォーマンステストとして、スピーキングテストを3回実施します。パフォーマンステストの詳細や評価方法は授業の中で連絡します。</p>		○	

科目	コミュニケーション英語Ⅱ	学期	後	時数 (55分授業)	64	単元	Lesson 6～10		
単元名	単元の評価規準（学習到達目標）						評価方法		
	定期テスト	パフォーマンス	課題						
Lesson 6	<p>・ コミュニケーションへの関心・意欲・態度： 近藤氏の片づけに対するユニークな考え方や方法に興味を持ち、積極的に理解しようとしている。</p> <p>(評価方法：活動の観察)</p>								
	外国語理解の能力							○	
	外国語表現の能力							○	
	言語や文化に関する知識・理解							○	○
Lesson 7	<p>・ コミュニケーションへの関心・意欲・態度： マララさんの経験について興味を持ち、パキスタンの社会・政治背景や、彼女の自国や教育に対する情熱を積極的に理解しようとしている。</p> <p>(評価方法：活動の観察)</p>								
	外国語理解の能力							○	
	外国語表現の能力							○	
	言語や文化に関する知識・理解							○	○
Lesson 8	<p>・ コミュニケーションへの関心・意欲・態度： 『ムーミン』の作者であるトーベ・ヤンソンについて、その時代背景や作品の詳細について積極的に理解しようとしている。『ムーミン』が時代や国を超えてあらゆる世代の人々から愛されている理由を、意欲的に知ろうとしている。</p> <p>(評価方法：活動の観察)</p>								
	外国語理解の能力							○	
	外国語表現の能力							○	
	言語や文化に関する知識・理解							○	○

の能力	W: キーワードを適切に用いながら、英語で要約を作成することができる。		○
言語や文化に関する知識・理解: 『ムーミン』の作者について知り、作品に込められた自由や平和に対する願いについて理解している。		○	
コミュニケーションへの関心・意欲・態度: 日本の都市に特徴的な電柱や看板の存在とその影響について興味を持ち、それらに対する異なる主張やその理由を積極的に理解しようとしている。	(評価方法: 活動の観察)		
Lesson 9 外国語理解の能力	L: 日本の景観に関する Dennett 氏の意見とその理由を理解できる。 R: Dennett 氏と Kato 氏や Honda 氏の意見の共通点や相違点を整理して理解することができる。	○	
外国語表現の能力	S: 他の人と意見を交換しながら、議論を深めることができる。 W: 題材に関する自分の意見を、根拠を示しながら、適切な表現で説明することができる。	○	○
・ 言語や文化に関する知識・理解: 日本でよく見られる電柱や看板の存在と景観に与える影響について理解している。		○	
コミュニケーションへの関心・意欲・態度: if の使用にまつわるエッセイを読み、著者の説明や感情を積極的に理解しようとしている。	(評価方法: 活動の観察)		
Lesson 10 外国語理解の能力	L: 様々な場面における if の使われ方とその働きを理解できる。 R: if が導く様々な仮想場面に親しみ、この短い単語が作り出す言葉の力について理解できる。	○	
外国語表現の能力	S: 「if という言葉がなかったら自分の生活はどう変わるだろうか」という課題について、グループディスカッションすることができる。 W: ことわざや童謡に効果的に使用される if の働きに注目し、自らも if を使って文を作ることができる。	○	○
言語や文化に関する知識・理解: ことわざや童謡などに効果的に使用される if について理解している。		○	
備考	授業中に、リスニングテストを随時行います。また、英作文を課題として提出します。パフォーマンステストとして、ライティングテスト、スピーキングテストをそれぞれ2回程度実施します。パフォーマンステストの詳細や評価方法は授業の中で連絡します。		



令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科	外国語	科目	英語表現Ⅱ	単位数	2
教科書	文英堂「UNICORN English Expression 2」		副教材	文英堂「UNICORN English Expression 2 WORKBOOK [語彙・文法編]」 旺文社「スクランブル英文法・語法」	

CAN-DO リストに基づく学習到達目標とその評価規準・評価方法					
コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	(評価方法) コミュニケーション活動、授業内アクティビティへの取り組みの観察および提出物による。				
外国語表現 の能力	<p style="text-align: center;">話すこと</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">やり取り</td> <td style="text-align: center;">発表</td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発話の細部に気を配りながら積極的に英語を話すことができる。</li> <li>・ 定型表現などを用いながら会話を継続することができる。</li> <li>・ なじみのある話題や自分のことについて話すことができる。</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 聞いたり読んだりしたことや自分自身のこと、身近な事柄等について、準備を進め、まとめた内容を英語で話すことができる。</li> <li>・ 聞き手を意識してわかりやすい発表ができる。(アイコンタクトやジェスチャー、十分な声量などの定着)</li> </ul> </td> </tr> </table> <p>(評価方法) 定期テスト、パフォーマンステスト (年2回)</p>	やり取り	発表	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発話の細部に気を配りながら積極的に英語を話すことができる。</li> <li>・ 定型表現などを用いながら会話を継続することができる。</li> <li>・ なじみのある話題や自分のことについて話すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 聞いたり読んだりしたことや自分自身のこと、身近な事柄等について、準備を進め、まとめた内容を英語で話すことができる。</li> <li>・ 聞き手を意識してわかりやすい発表ができる。(アイコンタクトやジェスチャー、十分な声量などの定着)</li> </ul>
	やり取り	発表			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発話の細部に気を配りながら積極的に英語を話すことができる。</li> <li>・ 定型表現などを用いながら会話を継続することができる。</li> <li>・ なじみのある話題や自分のことについて話すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 聞いたり読んだりしたことや自分自身のこと、身近な事柄等について、準備を進め、まとめた内容を英語で話すことができる。</li> <li>・ 聞き手を意識してわかりやすい発表ができる。(アイコンタクトやジェスチャー、十分な声量などの定着)</li> </ul>			
	書くこと				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文章の細部に気を配りながら、積極的に英語を書くことができる。</li> </ul> <p>※<u>枠組み</u>や<u>補助</u>があれば、聞いたり読んだりしたことや身近なことからについて、構成を意識したまとまりのある英文を書くことができる。</p> <p>※<u>枠組み</u>や<u>補助</u>とは理由の述べ方やパラグラフライティングなど、ライティングの基本的な型を指す。</p> <p>(評価方法) 定期テスト、小テスト、課題</p>					
聞くこと					
外国語理解 の能力	読むこと				
言語や文化についての 知識・理解	(評価方法) 定期テスト、小テスト、課題				

科目	英語表現Ⅱ	学期	前	時数 (55分授業)	3 2	単元	文英堂「UNICORN English Expression 2」	
単元名	単元の評価規準 (学習到達目標)						評価方法	
	定期テスト	パフォーマンステスト	課題					
Lesson1 ～ Lesson5	コミュニケーションへの関心・意欲・態度：周囲の人、教科書で扱う題材に関心をもち、積極的に言語活動を行う。 (評価方法：授業内の取り組み、提出物)	外国語理解の能力 L: R: S: 比較・対照、時間的順序、具体例・例証、原因・結果、意見と理由に関する表現を用いて、正しい英文を話すことができる。 W: 比較・対照、時間的順序、具体例・例証、原因・結果、意見と理由に関する表現を理解し、それぞれの場面で使い分けて、表現することができる					○	○
Lesson6 ～ Lesson7	言語や文化に関する知識・理解：言語材料について正しく理解し、運用することができる。 (評価方法：授業内の取り組み、提出物)	外国語理解の能力 L: R: S: 推量・確信、予測・期待、欠陥結果・言い換えに関する表現を用いて、正しい英文を話すことができる。 W: 推量・確信、予測・期待、欠陥結果・言い換えに関する表現を理解し、それぞれの場面で使い分けて、表現することができる					○	○
Lesson8 ～ Lesson10	コミュニケーションへの関心・意欲・態度：周囲の人、教科書で扱う題材に関心をもち、積極的に言語活動を行う。 (評価方法：授業内の取り組み、提出物)	外国語理解の能力 L: R: S: 類似、義務・必要、部分否定・強調、時を表す構文・情報の追加に関する表現を用いて、正しい英文を話すことができる。 W: 類似、義務・必要、部分否定・強調、時を表す構文・情報の追加に関する表現を理解し、場面に応じて、必要な表現を用いることができる。					○	○
備考	パフォーマンステストとして、リスニングテストを1回、スピーキングテストを1回実施します。パフォーマンステストの詳細や評価方法は授業の中で連絡します。 また、夏休みの課題として、既習事項の演習問題を解きます。							

科目	英語表現Ⅱ	学期	前	3 2	単元	文英堂「UNICORN English Expression 2」			
単元名	単元の評価規準（学習到達目標）					評価方法			
	定期テスト	パフォーマンス	小テスト		課題				
Lesson11 ～ Lesson15	<p>コミュニケーションへの関心・意欲・態度：周囲の人、教科書で扱う題材に関心をもち、積極的に言語活動を行う。 (評価方法：授業内の取り組み、提出物)</p> <p>外国語理解の能 力 L: R</p> <p>外国語表現の能 力 S：付帯状況・頻度、条件・驚き、例示・要求、原因・結果、譲歩、可能性に関する表現を用いて、英文を適切に話すことができる。 W：付帯状況・頻度、条件・驚き、例示・要求、原因・結果、譲歩、可能性に関する表現を用いて英文を書くことができる。</p> <p>言語や文化に関する知識・理解：言語材料について正しく理解し、運用することができる。</p>					○	○	○	○
Lesson16 ～ Lesson17	<p>コミュニケーションへの関心・意欲・態度：周囲の人、教科書で扱う題材に関心をもち、積極的に言語活動を行う。 (評価方法：授業内の取り組み、提出物)</p> <p>外国語理解の能 力 L: R:</p> <p>外国語表現の能 力 S：比較、賛成・反対、後方照応、理由に関する表現を用いて、英文を適切に話すことができる。 W：比較、賛成・反対、後方照応、理由に関する表現を用いて英文を書くことができる。</p> <p>言語や文化に関する知識・理解：言語材料について正しく理解し、運用することができる。</p>					○	○	○	○
Lesson18 ～ Lesson20	<p>コミュニケーションへの関心・意欲・態度：周囲の人、教科書で扱う題材に関心をもち、積極的に言語活動を行う。 (評価方法：授業内の取り組み、提出物)</p> <p>外国語理解の能 力 L: R:</p> <p>外国語表現の能 力 S：数量・失望、譲歩・使役、許可・禁止に関する表現を用いて、英文を適切に話すことができる。 W：数量・失望、譲歩・使役、許可・禁止に関する表現を用いて、適切な英文を書くことができる。</p> <p>言語や文化に関する知識・理解：言語材料について正しく理解し、運用することができる。</p>					○	○	○	○
備考	<p>パフォーマンステストとして、スピーキングテストを1回実施します。パフォーマンステストの詳細や評価方法は授業の中で連絡します。 また、冬休み、入試期間中の課題として既習事項に関わる問題演習を行います。</p>								

令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	家庭・家庭基礎	学年	第2学年	教科書	東京書籍「家庭基礎 自立・共生・創造」
		単位数	2単位	副教材	実教出版「生活学Navi 資料+成分表2021」

**学習目標**  
 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得し、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を身に付ける。

**学習方法**  
 ○授業における課題に対して自ら考え、また、周りの生徒と共同で考える活動を行います。  
 ○授業においてはプリントを利用します。  
 ○調理実習ではレポートを作成し、実習結果をもとに考察を行います。  
 ○家庭学習における課題を提出してもらいます。

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨	
	a	関心・意欲・態度	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活等について関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	
b	思考・判断・表現	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活等について課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。		
c	技能	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活等に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。		
d	知識・理解	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活等に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。		

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
前期	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ	2	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ	・ホームプロジェクトの進め方 ・ホームプロジェクトのテーマ検討	○	○			a: 自分や家族と家庭等の課題に関心を持ち、課題設定に向けて意欲的に取り組んでいる。 b: 課題設定に向けて広く資料収集し、様々な実践課題を検討している。	・プリント ・取り組み
	家族・社会との共生	6	自分らしい人生を作る	・家族に関する法律 ・家庭の役割	○	○		○	a: 家庭との関わりに関心を持ち、今の自分と向き合おうとしている。 b: 家族と家庭について、自身の考え方を明らかにすることができた。 d: 一生に関わる法律を知り、必要性を理解している。	・プリント ・取り組み ・テスト
		8	子どもと共に育つ	・発達・発育の特徴 ・集団保育と家庭保育 ・権利と福祉	○	○	○	○	a: 保育学習の意義を理解しようとしている。 b: 望ましい保育環境を考えている。 c: 子どもの遊びを体験し、子どもの心身の発達を促す遊びを実感することができる。 d: 子どもを支える仕組みについて理解している。	・プリント ・取り組み ・レポート ・テスト
		5	高齢社会を生きる	・高齢者の生活と福祉	○	○		○	a: 高齢者の生活に関心を持ち、未来の自分の生活として学習に取り組んでいる。 b: 高齢者福祉の問題点や解決策を考えている。 d: 高齢者を支える仕組みについて理解している。	・プリント ・取り組み ・テスト
		4	共に生き共に支える	・私たちの生活と福祉 ・社会保障の考え方	○	○	○	○	a: 一生を通じた福祉や社会的支援の必要性について考えようとしている。 b: 多様な人々のニーズ、ノーマライゼーションの理念を理解し、ユニバーサルデザインを考えている。 c: 社会福祉の問題点や解決策を考え発表することができる。 d: 社会保障制度の理念を内容を理解している。	・プリント ・取り組み ・発表 ・テスト
		7	経済生活を営む	・家庭経済 ・三者間契約 ・権利と責任 ・消費者問題	○	○		○	a: 消費生活と資源・環境との関わりについて考えようとしている。 b: 消費生活の問題点や解決策を考えている。 d: 消費生活をおくるために必要な知識を身に付けている。	・プリント ・取り組み ・テスト
後期	生活の自立	13	食生活をつくる	・食生活 ・栄養と栄養素 ・食の安全 ・調理実習	○	○	○	○	a: 食生活に関心を持ち、安全で健康的な食生活について考えようとしている。 b: 健康や環境に配慮した食生活を考えている。 c: 調理技術を身に付け、食環境などに配慮することができる。 d: 栄養素や食品の衛生について理解している。	・プリント ・取り組み ・テスト
		8	衣生活をつくる	・着用目的 ・成り立ちと性質 ・管理	○	○		○	a: 衣服の性能や改善に関心を持ち、衣服の選択や管理について考えようとしている。 b: 衣服管理において適切な判断ができる。 d: 衣服について基本的な知識を理解している。	・プリント ・取り組み ・テスト
		7	住生活をつくる	・快適な住生活 ・賃貸契約	○	○	○	○	a: 住生活に関心を持ち、快適な住環境について考えようとしている。 b: 快適な住生活について改善策を考えている。 c: 快適な住生活について検討することができる。 d: 快適な住生活等に関する知識を理解している。	・プリント ・取り組み ・テスト
	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ	2	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ	・ホームプロジェクト実践活動 ・発表	○	○	○		a: 住生活に関心を持ち、快適な住環境について考えようとしている。 b: 快適な住生活について改善策を考えている。 c: 快適な住生活について検討することができる。 d: 快適な住生活等に関する知識を理解している。	・レポート ・発表
	生活の創造	2	生活を設計する	・生涯を見通す	○				a: 生活設計や、職業設計の重要性を理解し、自分の将来の適性を考えようとしている。	・取り組み
合計時数(55分授業)		64								

令和3年度 横浜平沼高等学校 年間指導計画

教科・科目	総合的な探究の時間(SL)	学年	第2学年	教科書	
		単位数	1単位	副教材	課題研究メソッド(啓林館)

学習目標	自らの興味関心に基づき、テーマを探し出す力を養います。また、テーマに基づいて目標を設定し、学習を進める方法を学びます。さらに、学習の成果をレポート・発表として表現する力、自己の生き方・在り方を考えることができる力を身に付けます。
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学習方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>○講演を聞いたり、大学研究を行ったりすることで、でグローバル社会の自己の生き方・在り方を考えます。</li> <li>○課題研究を行うことで、自らの興味関心に基づいたテーマを探し出します。</li> <li>○以上の2つから学習を進める方法を学び、その成果を発表することにより、他者に伝えることや、他者への理解を深めましょう。</li> </ul>
------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨		
	a	知識・技能	探究の過程を通して、課題の発見と解決に必要な知識・技能を身に付け、グローバル社会に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。		
	b	思考・判断・表現	諸問題と自己との関わりから問いを見出し、自ら課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。		
	c	主体的に学習に取り組む態度	探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を身に付けている。		

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点			単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c		
通年	総合的な探究の時間	1	自己探究	ガイダンス(情報収集の方法)	○		○	a:探究の過程を通して、課題の発見と解決に必要な知識・技能を身に付け、グローバル社会に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。 b:諸問題と自己との関わりから問いを見出し、自ら課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。 c:探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を身に付けている。	授業への取り組み ワークシート
		6		スタディサポート キャリアサポート			○		
		3		講演会(シチズンシップ、思春期、教育実習)	○	○			
		4		グローバル教育講演会 交流会	○	○			
		6	課題研究	課題研究①	○		○		
		12		発表①		○	○		
				課題研究②	○		○		
				発表②		○	○		
合計時数(55分授業)		32							